

フォトライフ

四季

カメラのキタムラ フォト ネットワーク

〒222-0033 横浜市港北区新横浜2-4-1
☎ 045-476-0777
平成13年6月1日発行
季刊第37号

www.kitamura.co.jp

カメラの
キタムラ®

vol.37
SUMMER

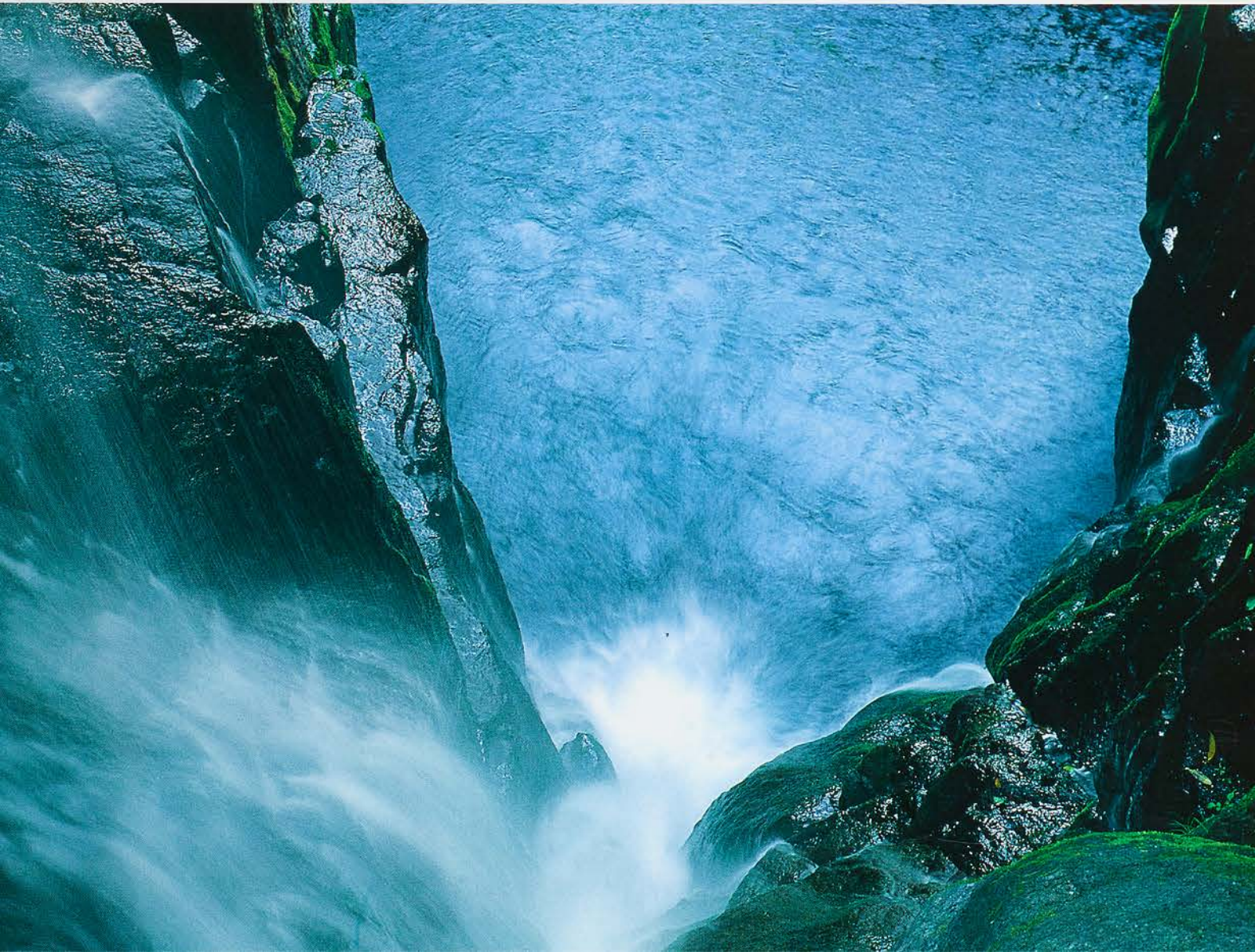
特集 写真家・宮嶋康彦氏

自然の多面性に注目することが、
個性的な作品を生み出してゆく。

田中長徳氏執筆「日本のカメラよもやま話」第3回

保存版 作品づくりは露出で決まる!

およそ落差20メートルの滝を、落ち口からのぞいている。水の勢いを撮るために、このポイントを選んだ。腰に命綱、足元はわらじを履いている。
■カメラ：ニコンF3 レンズ：ニッコール35mm
絞り：f8 シャッタースピード：1/30 フィルム：フジヘルビア 撮影地：熊本県菊池市菊池溪谷
(撮影) 宮嶋康彦氏



フォトライフ
四季

CONTENTS
Vol. 37
SUMMER



対馬海峡の澄んだ空気をフィルムに定着させるために、海面いっぱいの光を取り込んだ。定置網を仕掛ける人のシルエットの形に気配りした。
■カメラ：ニコンF3 レンズ：ニッコール200mm 絞り：f16 シャッター速度：1/250 フィルム：コダクローム64 撮影地：長崎県対馬海峡
(撮影) 宮嶋康彦氏

特集 写真家・宮嶋康彦氏

自然の多面性に注目することが、
個性的な作品を生み出してゆく。

宮嶋康彦先生ミニギャラリー 10

田中長徳氏執筆「日本のカメラよもやま話」第3回 13

第8回 子ども&赤ちゃん すくすくフォトコンテスト 受賞作品誌上ミニ展覧会 16

第6回 全国ペット・動物ふれあい写真コンテスト 入賞作品発表 18

保存版 作品づくりは露出で決まる! 21

特別取材 中橋富士夫氏に聞く 26

全国写真クラブ紹介 30

次ページ (P2・3) の写真解説

早朝、湿原に鹿を発見した。かれらが、こちらの望む姿になるまで、待った。朝の、すがすがしい空気が写りこむよう、ややオーバー目の露出を選んだ。

■カメラ：ニコンF3 レンズ：ニッコール200mm 絞り：f5.6 シャッター速度：1/60 フィルム：フジベルビア 撮影地：栃木県奥日光 (撮影) 宮嶋康彦氏

キタムラ撮影ツアー紹介 28

インターネットプリントサービス 29

キタムラ インフォメーション 32

プレゼントが当たる! クロスワードパズル 32

MINOLTA



21世紀 α、誕生。

撮影者が、それぞれのスタイルで心ゆくまで映像表現を楽しめるように、α-7は生まれました。道具としての使いやすさと最新のテクノロジーを高いレベルで両立。それは、世界最速オートフォーカス^{※1}をはじめとする新コンセプトのフォーカシングシステム等の数々の先進機能。使いやすいダイヤル&レバーによる明快なオペレーション。現在のカメラの状態が一目で把握できるナビゲーションディスプレイ。そして、レンズシステムまでを含めた軽量・コンパクトなボディ。先進性と操作性。機能性と機動性。すべてがバランスよく調和したその存在は、これまでの一眼レフとは明らかに違う。それが快適性能AF一眼、α-7です。21世紀に向けて、撮影者とカメラの新しい関係は、ここから始まります。



快適性能 AF 一眼。

α-7

希望小売価格(税別)
α-7・AFズーム24-105mm F3.5-4.5(D)付 ¥185,000
α-7ボディ ¥125,000
AFズーム24-105mm F3.5-4.5(D) ¥60,000

- 新コンセプトのフォーカシングシステムにより、すべてのαレンズ^{※2}で快適なフォーカシングコントロール。
- 多彩な機能使いやすいダイヤル&レバー操作。
- 撮影情報を集中表示。快適操作をアシストするナビゲーションディスプレイ。
- 明るさと見やすさを実現した快適な高性能ファインダー。

※1: 150mmレンズ装着時(当社試験条件において)。2000年8月15日現在。※2: xiズームレンズ、STF135mm F28 [T4.5]を除く。

■α-7のカタログ請求先(住所・氏名・年齢・機種名記入)
〒108-8608 東京都港区高輪2-19-13 NS高輪ビル
ミノルタ株式会社 宣伝課 フォトライフ四季係
■ホームページアドレス <http://www.minolta.co.jp/japan/camera/>

0570-007111

■フォトサポートセンター 営業時間 10:00~12:00 13:00~17:00 (土・日・祝日定休)
携帯電話・PHSをご使用の場合は、03-3356-9111をご利用ください。ファクス番号は、03-3356-6303です。
■お客様ご案内窓口(弊社製品に関する各種お問い合わせのご案内およびご意見ご要望などをお受けする窓口です。)
080120-162414 / 03-5423-7589 9:30~17:30 (土・日・祝日定休)



自然の多面性に注目することが、個性的な作品を生み出してゆく。

自然は美しいものであると同時に神秘的で、時には地震や雷のように怖いものでもあります。そうした様々な顔を持つ自然。今回取材させていただいた宮嶋康彦先生は、自然の持つこの多面性こそが、日本人固有の自然観と美意識を育ててきたと言われます。それだけではなく、その多面性が素晴らしい自然風景の写真を生み出す源泉にもなっていると指摘されています。『フォトライフ四季』編集部では、このたび、日本各地で撮影し、文章を書き…と精力的にルポルタージュされている先生に、その独自の自然観と、アマチュア写真家への貴重なアドバイスをおうかがいすることができました。是非、写真を愛する読者の皆さんの、新たな作品作りのヒントにしてください。 ※なお、表紙及び特集ページに掲載した写真は、すべて宮嶋先生の作品です。

特集 写真家 宮嶋康彦氏



みやじま やすひこ / 1951年、長崎県佐世保生まれ。1975年からフリーランスのカメラマンとして活動を始め、1981年に東京から標高1500メートルの奥日光に移住。自然風景の写真を撮り始める。1985年、『紀の漁師 黒潮に響く』でプレイボーイ・ドキュメント・フィルム大賞を受賞し、以後、写真と文章を合体させた作品を発表。1986年に奥日光を引き払い、再び東京の生活に戻った。写真集『母の気配』(情報センター出版局)、『一本の木』(草思社)、写真と小説が一つになった『日の湖 月の森』(草思社)、写真とエッセイでまとめた『誰も行かない日本一の風景』(シリーズ「つぼみ花壇」)、『日本列島探訪』(小学館)、『さくら路』(集英社)、ルポルタージュ『紀の漁師 黒潮に響く』(草思社)、『からかバの話』(朝日新聞社)、CD-ROM『日本花紀行 第一集』(シンフォレスト)、『つぼみ花壇 花壇 花壇 花壇』(ホタル前線)、『小学館』など著書多数。最新刊は『花行脚 66花選』(日本経済新聞社)。

最初は自然風景写真というのは、私には縁遠い写真のように思っていました。

先生は写真を撮り、文章も書いていらっしゃるんですよ。また写真による映像短編集や短歌と写真の融合の試みにも、積極的に参加されています。一方では取材されて、いわゆるルポルタージュも多く出版されています。非常に多

彩な活動を展開されているように思うのですが、先生が写真に興味を持たれた、そもそものきっかけからお話しいただけますでしょうか。

私は長崎出身なのですが、長崎では定時制高校に通いながら、昼間は新聞社で働いていたんです。記者が撮ってきたフィルムを現像してプリントしたりしていました。そのうちに支局長が私に写真を

撮ってみたいかと言ってくれまして、撮ってみると、これが結構使える写真だったんですね。それから仕事で写真を撮るようになったんです。そのうち原稿も書くようになりまして、それが運の尽き(笑)となって今まで写真を撮り、文章を書き続けているわけです。

定時制高校を卒業してから東京に出てきました。私は民俗学が好きなのですが、民俗学はお年寄りに会ってお話を聞き、

大雨が降った後、ちいさな温泉が水没した。早朝、太陽が出るのを待ってみた。予想通り、ドラマチックな風景が現れた。
■カメラ：ニコンF3 レンズ：ニッコール105mm 絞り：f18 シャッタースピード：1/60 フィルム：コダクローム64 撮影地：栃木県奥日光小田代原



それを書き、写真も撮らなければならぬ。私は写真も書くことも、人と会って話を聞くことも好きだったので、民俗学は自分に最適だと思っていましたし、自分にはそれができるとい

自分にはそれができるといふ自負もありました。大学は通信制を選びましたが、実際はアルバイトばかりしてました(笑)。

東京では新宿をテーマに写真を撮ってましたね。西新宿のブットというギャラリを根城にして小難しい写真を撮ってました(笑)。仲間と一緒に、朝まで写真について話し合ったり、ほとんど不良でした(笑)。その当時は自然風景のような美しい写真は、自分にはもっとも縁遠い世界のように思っていましたよ。

自然に対する怖れが日本人固有の自然観のように、私には思えます。

自然風景とは縁遠い写真を撮っていたというお話なのですが、そうした先生が自然写真にも目を向けるようになったのは、どういう理由からですか？

直接の理由としては、奥

日光に移り住んだのがきっかけでした。

私は一時、精神的にまいっていた時期がありました。どこでもいいから女房と二人で都会から離れたところに行きたかった。どこでもよかったのですが、たまたま何となく日光に寄ったときに、いいところなので、ここで暮らせないものかと地元の方に相談してみたんです。すると国立公園内なので住むことはできないが、旅館やホテルの従業員になれば暮らすことができるかと教えてくれたんです。旅館やホテルの中には家族寮や社員寮のあるところがあるらしい。私はすぐに老舗の旅館に連絡しました。すると雇っていただけるという。それで二人で車に積み込めるだけの荷物を積んで、奥日光へ行きました。結局5年の間、日光に住んでいましたね。

移住した当初は、別に写真を撮ろうとは思っていませんでしたが、旅館というのは昼間は暇なもので、空いた時間に森を歩くようになったんです。森には昼間でも葉や樹が作り出す深い影があり、森独特の気配がある。私は誰もいない森を歩いている、そうした森の気配にふっと怖さを感じたんです。これは何だろう、なぜ自分は森に怖さを感じるのだろうか、私はそのことを考えるようになりました。それで、この森独特の気配を写真にできないだろうかと思ったんです。それから奥日光の写真を毎日撮りはじめました。それが私が自然風景の写真を撮りだした最初です。

そうして撮りためた奥日光の四季の写真



ここに暮らしていたころ、毎日眺めていた風景。いまも訪れると、かならず撮影する。撮るたびに発見がある。この日は水面が鏡のようだった。それをシンメトリーに撮った。
■カメラ：ニコンF3 レンズ：ニッコール50mm 絞り：f18 シャッタースピード：1/125 フィルム：フジベルビア 撮影地：栃木県奥日光湯の湖

真展を開いたのです。そうしたら、あるレンタルカラーの会社が私の写真を預かりたいと言ってきました。それで400点ほどあった写真を預けたのですが、その私の写真を使ったカレンダーの企画が立て続けに3つも決まったんです。それで思いがけない大金をいただきました。いきなりそんな大金をいただいたんでびっくりしましたよ(笑)。これはいかに写真は金になりすぎると思いましたね(笑)。



被写体を通じて、私に美しいと思わせるもの、写真に撮りたいと思わせるものを、私は写真を通して表現したいのです。



の水が一端そこらぶつかってから滝壺に落ちていきます。しかし、昔は直接滝壺に落ちていたので勢いが今よりずっと強かったんです。雨上がりともなるとすごい水量でした。怖かったですよ。

森で感じた怖れと、華厳の滝で感じた怖れから、私は最初に人間が自然に抱いた特別な感情は、恐怖だったんじゃないかと思うようになりました。噴火や台風、大水といった自然の驚異にさらされて、人間は自然を怖ろしいものと思うようになったのではないのでしょうか。それがやがて自然に対する畏怖や畏敬の念に変わり、それが自然宗教になっていったように思うのです。

私が森や滝で感じた怖れというのは、何千年も前の日本人も同じように感じ取っていたと思いますし、これこそ日本人の固有の自然観ではないでしょうか。それが私の血肉の中にも脈々と受け継がれているように思えるのです。

そうした先生の自然観は、先生の自然風景の写真にも反映されているわけですね。

もちろん反映されていますし、それが私の自然風景の写真の特徴でもあります。花が咲き、霧が湧き、新緑が萌える自



然現象を美しい、写真に撮りたいと思わせるのも、怖れから来る自然に対する畏敬だと私は思います。私はそのことを写真を通して表現したいのです。

初夏の高層湿原の朝は、晴れた日ならかならず霧がでる。日が昇るにつれて霧は薄くなる。霧が晴れていく中から、レンゲツツジの花が浮いてくる瞬間を待った。
■カメラ：ニコンF3 レンズ：ニッコール85mm 絞り：f8 シャッタースピード：1/30 フィルム：フジベルビア
ア 撮影地：栃木県日光市戰場ヶ原

確かに先生のおっしゃるとおり、森には怖れを感じさせる一面もあると思うのですが、一方で日本人は森や自然を愛し、その恵みに感謝してきたようにも思えます。その点に関しては、どのようにお考えでしょうか。

怖れが自然を崇拜する自然宗教に発達していったのではないかと思います。

華厳の滝の写真を撮ろうとした時のことなのですが、華厳の滝の写真というのは皆さんから撮っています。しかし私は滝壺に入って下から撮りたかった。それでいろは坂から降りて沢を上り詰め、華厳の滝の落ち口まで行ったのです。しかし、そこで足がすくんでしまいました。今の華厳の滝は地震があつてからテラスのようなものができて、流れ落ちた滝

新しい雑誌を作るので手伝ってほしいと言ってきました。たとえは絵葉書にならない日本一の風景を撮ってくれないかと言う。それで「サライ」の創刊準備号から10年間担当しました。

まだ人に知られていない日本全国の風景を探して取材に行くのですが、これらの撮影ポイントを探すにあたって、一番利用させていただいたのはお役所でしたね。町役場です。こういう理由でヘン(?)な風景を探しているのですが、こちらにそういう風景



自然にも人と同じように老いがあり、営みがある。その多面性に注目してほしい。

先生は「サライ」という雑誌に「誰も行かない日本一の風景」というテーマで連載を続けておられましたか、これはどのようないきさつで始められたのですか?

もともとは私の釣り友達だった、小学館のNさんという方が、「サライ」という

がありましたよな?と全国各地の町役場に電話して聞いてまわるのです(笑)。すると担当の方が、ああ、あそこかな、と答えてくれました(笑)、資料として観光パンフレットを送ってくれました。そのパンフレットを見て撮りに行くわけです。それが10年も続きました。

先生はルポルタージュを何冊も出版されていますし、「紀の漁師 黒潮に鯉を追う」ではプレイボーイ・ドキュメント・フ



街道を車で走っていて、コブシの群落が目飛び込んできた。美しいものと出遭ったとき、迷わず撮影の態勢に入りた。■カメラ：ニコンF100 レンズ：ニッコール180mm 絞り：f8 シャッタースピード：1/125 フィルム：フジベルビア 撮影地：岐阜県清見村

ホテルの撮影のポイントは、日が落ちた直後にシャッターを切ること。空に、いくぶんかの残照があるほうがいい。三脚は重量のあるものが望ましい。
■カメラ：ニコンF100 レンズ：ニッコール58mm 絞り：f2 シャッタースピード：8秒 フィルム：エクタクローム 撮影地：鹿児島県大隅町

滝の写真はスローシャッターで、情緒たっぷりに撮影したものが多い。情緒たっぷりのその美意識は自分には合わない。華厳の滝の力強さを、高速シャッターで切りとった。
■カメラ：ニコンF3 レンズ：ニッコール180mm 絞り：f4 シャッタースピード：1/250 フィルム：フジベルビア 撮影地：栃木県日光市華厳滝

せる構成美の方に魅かれるのです。

桜の花が咲いているところというのは桜樹の一面でしかありません。人言えは華の一時期なのです。でも人は華の時期以外は美しくないのかというと、そうではありません。人はもっと多面的で、たとえ老人になっても美しいと感じられる時がいくらかもあるのです。同じように、桜もまた花が咲いている時だけが美しいわけではないんです。枯れた桜樹だって美しい。私はその枯れた桜樹の美しさに気がついたときに、自分が桜の一面しか見ていなかった、桜の多面性に気がつかなかったと思いました。それから私は冬の桜も撮るようになったのです。も

一見美しいとは思えないものに、写真を通して美しさを見つけだしてゆく。その美しさの発見こそが、オリジナリテイにつながってゆくのです。

もちろん、夏も秋も撮っています。自然も人間と同じように老いがあり、営みがあります。日本人は昔からただ美しい一瞬に焦点を当てただけではなく、「わび」「さび」という枯れてゆく美しさ、美しさを失った後にも美しさを見つけた。そうした美意識を持っていました。そうした、美しさを多面的に捉えようとする精神は私たちの中にも受け継がれているはずなんです。

日本の夏の特徴は「熱」だと思います。

——自然の多面性ということでは日本には四季という大きな季節の変化があります。先生はこれからの季節、夏にどのような印象をお持ちですか？

私が生まれ育った長崎では、夏と言ったら精霊流しなんです。その印象が強いですね。長崎では大きいものでは10メートル以上もある大きい精霊舟を作り、親戚一同で海まで引いていきます。そうした精霊舟があちらこちらから出てきて、一斉に海に向かって殺到する。私は小さい頃に、この精霊流しの行事を見ながら、



(上) もう十年以上、精霊流しを撮っている。民間伝承や、土俗の信仰に惹かれる。これも「自然写真」のひとつ。
 ■カメラ：ニコンF3 レンズ：ニッコール50mm 絞り：f8 シャッター速度：1/250 フィルム：フジベルビア 撮影地：福井県小浜市
 (下) 夕方の光を浴びながら、港を出て行く精霊舟を、海面に近い目線で撮った。海上では三脚が使えず、手ぶれに細心の注意を払った。
 ■カメラ：ニコンF3 レンズ：ニッコール105mm 絞り：f8 シャッター速度：1/250 フィルム：フジベルビア 撮影地：福井県小浜市

夏になると死んだ霊が戻ってくるという怖れを抱いていました。夜なんか怖かったですよ(笑)。

その影響もあって、私は今、夏になると全国の精霊流しを取材して歩いているんです。隠岐の島では藁で20メートルくらいの精霊舟を作り、新盆のあった方々がその精霊舟に乗ります。沖合まで精霊舟を曳航して流すのですが、その流すところで精霊舟に乗っていた人たちが曳航してきた船に移り、死んだ霊との最後の別れを惜しみます。その様子を精霊舟を作るところからずっと取材しているんです。

自然風景の写真で言えば、夏の特徴は強烈な光、そして「熱」です。入道雲であれ草原に立ち上るかげろうであれ、熱が起きているものではないでしょうか。私は精霊流しにも熱を感じるんです。先祖に対する熱い思いですね。盆踊りで夜通し踊ったりするのも、そうした熱い思いのあらわれではないでしょうか。それが日本の夏の特徴だと思います。

——**テーマが写真のオリジナリテイを鍛えるのです。**

——先生の方からアマチュア写真家の

方々にアドバイスをいただけることがありましたら、お話しください。

写真撮影の技術は本を読んだり、仲間どうしで教えあったりすればなんとかなります。しかし表現としての写真を求めるのであれば、短い期間でもかまわないですから、テーマを持って撮影することをお勧めします。

私はカルチャースクールで写真の講師を10ヶ月間つとめたことがありましたが、そのときにも、受講されている方々の撮った写真を拝見しながら、お一人お一人に私の方からテーマを与えて、その



テーマに沿って撮り続けていたんだと思います。たとえば自分の家の庭を撮っている方がいたのですが、その庭の写真を見すると技術はもう完璧なんです。その写真に写されていた庭が撮影者ご自身の庭に見えない。写真にオリジナリテイが欠

けられていたのです。そこで私は庭そのものをテーマとして、庭に起こるどんなことでも撮ってほしいと言いました。どの庭でも撮れる写真ではなく、自分の庭でしか撮れない写真を撮ってほしいです。そのためには庭の美しさばかりに目を向けてはいけません。花が枯れてゆくのも自分の庭で起きた出来事です。ただ美しいものだけにレンズを向けるのではなく、一見美しいとは思えないものにも、写真を通して美しさを見つけだしてほしかった。その美しさの発見こそが、オリジナリテイにつながってゆくのです。

最後にになりましたが、先生がカメラのキタムラに思うこと、期待されることがあったら教えてください。

写真を文化として捉えるという姿勢を今後も続けていただきたいし、真面目に取り組んでいただきたいと思っています。各地にギャラリーを作っていたらいいですね。今は東京一極集中のようになっています。地方に行くときギャラリーがないんです。九州にも札幌にも仙台にもほしい。キタムラさんのギャラリーを中心にサロンのようなものが各地に形成されていくといいと思います。それが日本の写真文化の底上げにつながってゆくと思いますので、期待しています。

——**お忙しいところを、ありがとうございました。**

石もテーマの一つだ。いつか、石の本をつくらう、と思っている。カメラを持って野外へ出たら、些細なものでも、じっくり観察するよう、心がけている。
 ■カメラ：ニコンF3 レンズ：ニッコール50mm 絞り：f5.6 シャッター速度：1/60 フィルム：フジベルビア 撮影地：岐阜県寝覚めの床

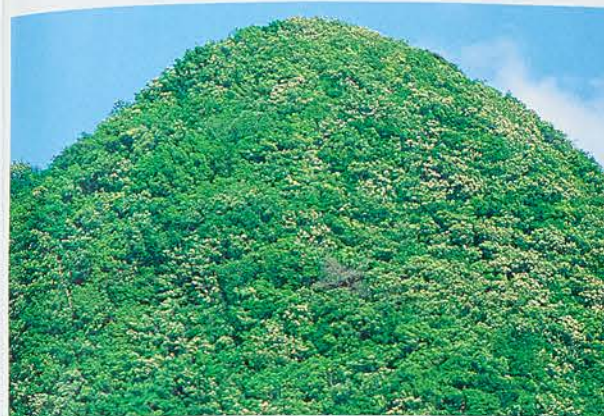
また、ある方がある村の自然景観が気に入って、その村に通って写真を撮り続けていました。その方には自然景観だけではなく、その村そのものをテーマにするように勧めました。その村を通る郵便



水は永遠のテーマ。水に向かうとき、その流れの早さと、水量と、水温を充分感じてからシャッターを押す。
 ■カメラ：ニコンF3 レンズ：ニッコール50mm 絞り：f8 シャッター速度：1/125 フィルム：コダクローム64 撮影地：群馬県片品村吹割の滝



「奥の細道」の取材で撮った一枚。町の光をよい具合に取り込むよう、場所の選定に時間をかけた。あとは空と川面の露出が同じになる時間を待つ。
 ■カメラ：ニコンF3 レンズ：ニッコール50mm 絞：f14 シャッタースピード：1/2秒 フィルム：フジクローム 撮影地：山形県酒田市最上川河口



風もまた、ぼくには生来のテーマ。風の強い日、山の木がざわついていた。いくらかスローシャッターで、山の動きを求めた。
 ■カメラ：ニコンFE2 レンズ：ニッコール105mm 絞：f16 シャッタースピード：1/4 フィルム：フジベルビア 撮影地：長崎県対馬下県町



宮嶋康彦先生ミニギャラリー

宮嶋先生は長い期間をかけて取材を続けているテーマを複数お持ちです。「街や村里風景もまた自然の持つ一面に過ぎない」と言い切る先生の、自然の多面性の追求は、花に、動物に、人間の生活にと、とどまることを知りません。ここでは先生の、その少年のような旺盛な好奇心がとらえた、風景写真をいくつかお借りして、その壮大な自然観を少しだけ紹介させていただくことにいたしました。



尾瀬ヶ原の朝を撮るために至仏山に登った。霧のグラデーションが損なわれないよう、写真中央部で露出をとっている。
 ■カメラ：ニコンF3 レンズ：ニッコール85mm 絞：f14 シャッタースピード：1/60 フィルム：コダクローム64 撮影地：群馬県片品村至仏山



日本海の波の花は冬の風物詩。この現象を「花」と捉えた心映えに乾杯したい。「花」が形を失わないよう、速いシャッターを切っている。
 ■カメラ：ニコンF100 レンズ：ニッコール35mm 絞：f14 シャッタースピード：1/125 フィルム：コダクローム64 撮影地：新潟県山北町笹川流れ



明けていく湖を撮るためにミズナラの根元で夜明けを待つ。森や水辺の撮影は、よくその場の空気になじんでから撮るようにしている。
 ■カメラ：ニコンF3 レンズ：ニッコール50mm 絞：f2 シャッタースピード：1/4 フィルム：フジクローム 撮影地：栃木県日光西ノ湖



自然写真を撮り始める前、富士山見物のために三つ峠に登った。そこから見た高沢連峰の朝焼けを撮った。オーバーにならないよう配慮。
 ■カメラ：ニコンF3 レンズ：ニッコール135mm 絞：f8 シャッタースピード：1/30 フィルム：フジクローム 撮影地：山梨県河口湖町三つ峠

花の撮影は多くのなかから、どの花を撮るかがたいせつ。あとは角度で、背景に何をどのようにぼかすかである。
 ■カメラ：ペンタックス645 レンズ：120mmマクロ 絞：f14 シャッタースピード：1/60 フィルム：フジベルビア 撮影地：北海道サロマ湖村



ドウダンツツジの花は限りなく白く、晴れた日はオーバーになりがち。花どうしの乱反射を防ぐため、PLフィルターを使用している。
 ■カメラ：ペンタックス645 レンズ：75mm 絞：f8 シャッタースピード：1/60 フィルム：フジベルビア 撮影地：岐阜県岐阜市



ガジュマルにおおい尽くされた炭鉱跡。こうした産業遺跡も、自然写真のうち、として撮っている。木の勢いを真正面から撮影することに気がつけた。
 ■カメラ：ニコンF3 レンズ：ニッコール35mm 絞：f8 シャッタースピード：1/8 フィルム：フジベルビア 撮影地：沖縄県西表島

日本のカメラ よもやま話

第3回

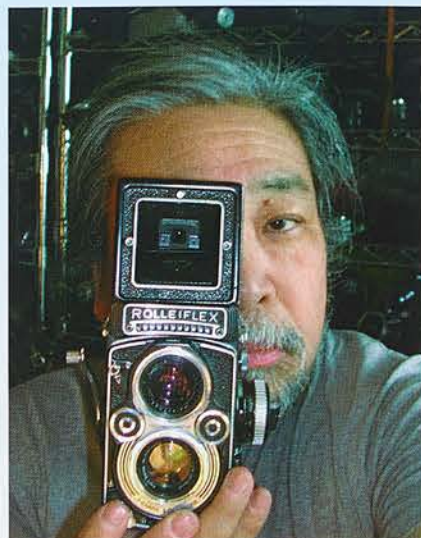
デジカメ全盛の現代に、戦後の
国産二眼レフの新鮮な魅力を発見!

レンズ交換式の二眼レフを世界で最初に商品化したのが、マミヤCシリーズであった。その斬新なアイデアは、ローライに影響を与え、ワイドとテレの専用のローライフレックスを開発させるに至った。求めやすい価格で、頑丈というので、一時は町の写真屋さんの代表的カメラであった。一方で世界的な写真家、ダイアン・アーバスの愛機としても有名。55ミリから250ミリまでの交換レンズ群を誇っていた。



田中 長徳

たなか ちょうとく / 1947年東京生まれ、日大写真科卒。日本デザインセンター勤務の後、1973年からフリーランス写真家に。ウィーンに8年間、ニューヨークに1年間滞在。東京、ウィーン、ニューヨークなどで個展多数開催。著書・写真集多数。最近クラシックカメラのエッセイの仕事も多い。日本写真家協会会員。最新の写真集は「CHOTOKU @WORK 1964-2001」(毎日コミュニケーションズ)。



さて第三回目である。最近、二眼レフがなかなかのブームらしい。肩からぶら下げていてカッコよい。その正方形のスクリーンで、構図を作るのが楽しい。などなど、その魅力は、現代のコンパクトカメラや、一眼レフにはないポイントがある。私も、各種二眼レフを仕事に散歩カメラにと愛用している。ただ、我々、団塊の世代にとって、二眼レフは古くさいカメラであった。なにか、押入の中から出てきた、かび臭い古カメラを使用してはいる感があった。ところが、最近気がついたことであるが、この二眼レフブームの主役は10代、20代の連中である。連中は安い中国製の二眼レフなんかを使っているけど、なかなかサマになっていると思う。彼らの共通する特徴は、その服装がきままっていることだ。だから、私などが古い二眼レフなどを使っていると、古い人間×古い二眼レフとんでも

なく古い写真機人間であるのに対して新しい人間×古い二眼レフ時代の流行を行くカメラ人類という構図になるのである。なぜ、二眼レフがブームなのか?そこを、今回は探検してみよう。世紀が、20から21にカウンタートが進んで、世の中では、銀塩カメラ(フィルムを使う従来のカメラのこと)と、デジタルカメラとが、ほぼ、互角の戦いを演じている。おっと、言い方が誤解を与えるので、言い直せば、本来、デジタルと銀塩カメラとは争う間のものではない。つまり、デジタルと銀塩カメラは協関係を持っていて、最近の若い連中の撮影のやり方を見ていて、面白いのは、普段は安い玩具デジカメで撮影して、いざ、自分の大切な撮影となると、そこで、「フィルムを入れるカメラ」を取り出すのだ。彼らのカメラのカテゴリーでは、





ずっと、ずっと、
ウイズ、
ユー



新発売

本格&カンタン一眼
New Nikon U

●ボディ本体(リモコン・ストラップ・アイピース・キャップDK-5付)	¥61,000
●AFズームニッコール28~80mm F3.3~5.6G(シルバー/ブラック)	¥25,000
●AFズームニッコール70~300mm F4~5.6G(シルバー/ブラック)	¥30,000

ママのそのカメラは、家族を未来に残せるカメラですか。

Nikon 株式会社 ニコン 本社 100-8331 東京都千代田区丸の内3-2-3(富士ビル) 製品に関するお問い合わせは「お客様相談室」まで。電話(03)3775-2266 FAX(03)3775-7201

京セラ株式会社

CONTAX T3

NEW



- 描写性能で格段の進歩を遂げた新開発カール ツァイス ゴナー-T*35mm F2.8
- コンパクトカメラの撮影領域を大きく広げる多彩な先進機能
- 「持つ喜び」を満足させる高耐久・高品位コンパクトボディ
- 自分のためのカメラに設定が可能なカスタム機能

メーカー希望小売価格(税別)

T3.....¥98,000/T3チタンブラック.....¥108,000(ケース、ストラップ付)
T3D.....¥108,000/T3Dチタンブラック.....¥120,000(データバック、ケース、ストラップ付)

[CONTAX T3 主な仕様]

- ・レンズ/カール ツァイス ゴナー-T*35mmF2.8(4群6枚) ・絞り/F2.8~16
- ・シャッター型式/ダブルピストン式レンズシャッター
- ・シャッタースピード/プログラムオート時:16秒~1/1200秒(絞り開放時最速1/500秒) ロングタイム設定時:1秒~180秒
- ・寸法/105(幅)×63(高さ)×30.5(奥行き)mm ・質量/230g(電池別)

お問い合わせ先 京セラ株式会社 光学機器事業本部 マーケティング部
〒158-8610 東京都世田谷区玉川台2-14-9 TEL.03-3708-3790 京セラホームページ <http://www.kyocera.co.jp/>

途上国であったこの国にとって、ローライはその価格からしても、一般写真愛好家にとっては、それは高嶺の花であるどころか、それを購入することを想像することも不可能な高級カメラであった。

1950年代の始めから、俗にAからZまでの、二眼レフが存在したという逸話があるほど、日本は二眼レフがブームであった。それは戦後の乱立状態であった、「四畳半メーカー」という言葉もあつたほどだ。これは弱小メーカーが、二眼レフを生産するには、レンズや、ボディの部品やら、必要なモノをパーツ屋さんから購入して、それを組立て、自社のロゴを付ければ、それで独自ブランドの二眼レフの二丁あがりというわけである。ここには多少の脚色はあるが、当時の二眼レフブームの側面をうまく抄出している。

その中で、パワーを持っていたのは、やはりその背景に技術を持っていた、カメラメーカーであった。マミヤ、オリンパス、ミノルタ、トプコン、リコー、ヤシカなどが名乗りをあげた。1950年代始めから半ばのことである。リコーの出したリコーフレックスは、その価格が求めやすかったもので、その代理店であった銀座四丁目の和光などでは、リコーフレックスを求める長い列が出来、闇市場ではその価格は急騰したと伝えられる。現今の、カメラの安売り商戦からは信じられないことである。

1951年のマミヤフレックスオートマットは、マミヤの有名なレンズ交換式二眼レフ、マミヤCシリーズの前のモデルであるが、ローライフレックスと同様なフルオートマットのフィルム装填機構を完備していた。これは、一般のスタートマーク式の最初にフィルムの先端を、マークに合わせる方式ではなく、ただ、フィルムの先端を巻き取り軸に入れて、蓋をして巻き上げの止まる所まで、回転させれば、撮影準備完了というモデルであった。

戦前のミノルタフレックスで、すでにセミオートマット機構を採用した千代田光学(現ミノルタ)の二眼レフは、戦後には、シンプルなローライコードタイプから再出発し、ミノルタコード、ミノルタオートコードへと進化した。実用的なカメラであるので、仕上げが良いというのではないが、ロコールレンズの優秀さは多くのファンを生んだ。フォーカシングレバーの方式で、迅速なピント合わせが可能。早い時期から120フィルムだけではなく、220フィルムへの対応もしていた。



デジタルカメラを「カメラ」と呼ぶ。では、フィルムを入れるカメラを、どう呼んで区別しているのかと言うと、これを「現像するやつ」あるいは「現像するカメラ」と言うのである。

デジタル時代には、当然のことながら、デジタルカメラが普通の存在であるから、それは単に「カメラ」であって、フィルムを入れる方の写真機は、若い連中にとって、特別な存在なのである。ゆえに、撮影した後に、フィルムをラボに持って行くこと自体を、若い連中は別に面倒なことだとは思っていない。そういう手間は、自分の住んでいる地元のヘアサロンよりも、代官山のヘアサロンに行く方が時間がかかるけど、お洒落という感覚と同一であって、フィルム現像することが、彼らには「特別」なことだから、カッコよいという図式が成り立つもののようなのだ。つまり、日常の映像はデジカメで撮って、

ちよつと気取った撮影にはフィルムカメラを使用するというのが、新カメラ人間の彼ら流儀なのだ。

一方で旧カメラ人類の私などは、仕事が多忙なジジイなので、逆にデジカメの比率が増えている。現像に出して、それをビックアップして、今度はその選んだフィルムを編集部に届けるといふ複雑な時間と手間がある。にもかかわらず、一般に原稿料は安いから(これは本稿を当てつけに言っているのではない。キタムラさんからは結構なギャラを頂戴しております)時間の節約の為に、(フィルム代の節約ではない。フィルム代は写真家の経費の中ではわずかなものである)デジカメで撮影して、インターネットで画像を送稿というのが、普通だ。私の朝日新聞の連載記事「カメラアイ」もそうだし、この連載もシステムは同様である。

ところが一方で、私のカメラシーンで



オリバスフレックスは普通の二眼レフは4枚構成の明るさがF3.5のテッサイタイプが主流なのに、6枚構成のF2.8で、他の競合機に水をあげた。しかし、二眼レフファンの中で、一番、記憶に残るのは、ミノルタオートコードである。ミノルタは戦前にすでにセミオートマット式のミノルタフレックスを世に出している。戦後の進歩で、ミノルタオートコードは、迅速なレバー式のフォーカシングと、セミオートマット方式のフィルム装填、そしてなによりもロコール75ミリF3.5のレンズの優秀さで、国産二眼レフの「定番機」となった。レンズの優秀さでは東京光学のプリモフレックスも人気機種であった。

実に数の多い国産二眼レフであるが、最後に私の大好きな機種をそこに加えらば、コワが1960年代半ばに生産していたカロフレックスであろう。

これはあのコルゲンコーワのコーワが作った二眼レフなのである。コーワは、自社ブランドのレンズ、プロミナーを持っていて、プロミナーは映画用レンズとしても有名であった。カロフレックスはそのプロミナー75ミリF3.5レンズを装備し、フォーカシングレバーと同軸のフィルム巻き上げレバーが非常にユニークな速写性のある二眼レフだった。

撮影シーズンに向けて、高級二眼レフでの撮影行も結構だけど、クラシックな国産二眼レフは旅のお供に最適な「旅カメラ」である。

あの、コーワのあの、コーワが生産した、個性派の二眼レフが、カロフレックスであって、フォーカシングと、同軸の正一回転の巻き上げクラックで、速写性を図ったモデル。ファインダーのコンデンサーレンズと、スクリーンは、観察がしやすいように、前に傾斜した独自の構造であった。シャッターボタンは、左手でできる構造である。思いもかけぬ場所に、フィルムカウンターが付いている。その場所は秘密!! 実際にはセコハンカメラ店で、実際に手にして驚いてもらいたい。



も、最近、二眼レフの存在が浮上してきた。その使い道の第一は、まず、カメラの操作を楽しめることである。その第二は、これは自分の写真家としての活動には、このタイプの二眼レフは、思索の道具となるのである。私の名前を、カメラ雑誌のメカ記事によく見るので、私をメカライターのジジイと勘違いする向きもあるようであるが、私は本来は、「シリウスフォトグラフアー」が本職なのである。その意味は、訳のわからない写真を撮影して、それを写真芸術であるとする高踏派のことである。これは欧米では職業として成立し、社会の尊敬も受けているのが、シリウスフォトグラフアーであるが、日本ではまだ認識されていない。ゆえに、その日本語訳を「売れない写真家」というのである。

二眼レフは、真面目な写真家の武器なのである。かの、ライカ名人木村伊兵衛

先生も、ここ一番!と撮影の気合いを入れた時には、ローライフレックスを愛用したし、名作「11時02分ナガサキ」の東松照明さんは、ミノルタオートコードを愛用した。石元泰博さんは、アメリカのニューバウハウス出身の英才であるが、ローライフレックスを愛用する一方で、1960年代の日本製二眼レフの優秀さを激賞している。

事実、1950年代から60年代にかけて、この国は二眼レフ天国であった。それはカメラファンのローライフレックスへの渴望が生んだのである。戦後、開発

戦後の初期、国産二眼レフには、ドイツのローライが越えようという意気込みがクあった。その代表的存在で、4枚構成のF2.8を基本に採用した。レンズのパヨネットマウントや、絞りとシャッターのダイヤルも仕上げが良い。ただし、セルフコッキングではなく、いちいち、シャッターをセットする必要があった。

賞金・賞品総額

160万円

元気なお子様たちの
まぶしい笑顔、
ふるって
ご応募ください!

グランプリ	賞金10万円と楯	1名
最優秀賞	賞金5万円と楯	5名
優秀賞	賞金3万円と楯	10名
佳作	賞金1万円と楯	30名
入選	記念品(2千円相当)と楯	300名

募集期間

平成13年7月15日(日)~8月31日(金)
カメラのキタムラ店頭または事務局必着

※詳細は、7月中旬よりカメラのキタムラ店頭に設置されますポスター、または応募チラシをご覧ください。



優秀賞受賞
「水しぶき」田中勝利(三重県)
「チャー冷たい!」いたすつ子に水のみ場が
ちよつこだけおしおきしたのでしょか?
とてもキレイな夏の日のワンシーンですね!



優秀賞受賞
「まわれまわれ。」中川晋様(秋田県)
扇風機も風車もよくまわります。自分の息を
吹きかけてまわす風車よりも、扇風機の方がよ
くまわること「発見」しちゃったんですね!



優秀賞受賞
「わらこづみ」
野中元様(熊本県)
南国熊本の中でも、阿蘇地方には一足
早い秋の訪れ。「わらこづみ」のお手伝い
をしているのでしょうか、それともワ
ンちゃんと一緒にイタスラの真っ最中?



優秀賞受賞
「虫取り」
樋口洋光様(福岡県)
夏休み真っ最中! ターゲットは蝶?
それとも蝉? 「獲物」を見つけた
二人の表情、そして躍動感がしっ
かりと伝わってきます。



佳作受賞
「自慢」永野豪様(福岡県)
大漁ですね! 魚のつかみ取り大会
でしょうか!? 家族で食卓を囲ん
だときの「武勇伝」まで聞かせてき
そうな作品です。



佳作受賞
「台所からこんにちは」
久世泰子様(三重県)
秘密の隠れ家でしょうか? 日常生活の中
でみせるお子さんのチョットしたイタス
ラごころをパチリ! 微笑ましい作品です。



佳作受賞
「きれいな海だよ」
村川浩様(徳島県)
「一緒にあそぼー!」と写真の向こうか
ら呼んでくれますね。手を伸ばせば
そこに沖の海が。一緒に遊びたい!

佳作受賞
「きれいでしょ?」
皆水宏佳(広島県)
いずれ彼女をお嬢さんが迎えにきたとき、
絶対に見せてあげたいワンショットで
すね(笑)。これほど自然な表情を撮れ
るのはやはりご家族ならではのでしょう。



グランプリ受賞
「My Twins」田村伊津子様(静岡県)
双子のママさんによる会心の一枚。
赤ちゃんたちの微妙な違いが伝わってきて面白い!

最優秀賞受賞
「ハブニング」田坂恵子様(奈良県)
まるで「金色夜叉」の1シーンみたいです(笑)。シャッ
ターチャンスでこんなに楽しい作品になるんですね。



カメラのキタムラ
子ども&赤ちゃん すくすくフォトコンテスト
受賞作品誌上 展覧会

※写真のコメントはキタムラの社員によるものです。

毎回審査をしていただいている沼田先生によると、「受賞の当落はほんのわずかな気遣いの差」とのこと。撮影テクニックだけではなく、作品から溢れ出る「撮る人のこころ」が大きな評価ポイントとなる「カメラのキタムラ 子ども&赤ちゃん すくすくフォトコンテスト」です。お子さんたちの弾む笑顔、何気ないしぐさから生まれる会心の表情…。被写体であるお子さんの可愛さは、ご自分のお子さんが一番でしょうし、お子さんたちに向けて皆さんの愛情はほぼ五角のはず!

今回も皆さんの「イチオシのひと押し」をキタムラ社員一同心よりお待ちしております。

お子さんたちが最も光り輝く季節「夏」の到来。今年も「カメラのキタムラ 子ども&赤ちゃん すくすくフォトコンテスト」の季節がやってまいりました! キタムラでは、作品を応募される皆さんの参考にしていただければと、前回ご応募いただいた約8400点の中から、受賞作の一部をご紹介します。何気ないワンショットから、シャッターチャンスを見事に捕らえた秀作、そして思わずうなづいてしまうような傑作まで、いずれも甲乙つけがたい作品ばかりです。



最優秀賞受賞
「フレンチ」杉江輝美様(兵庫県)
「いなー。おサルさんからオヤツもらって!」って、違いますね。サルにエサをあげるお子さんとサルの視線がぴったりヒーナツッへ!

最優秀賞受賞
「新幹線だーいすきっ!!」小野寺美也子様(岩手県)
新幹線と一緒に写してもらおうのが、よほどうれしいのですね。顔全体で、目一杯喜びを表している。お子さんならではの表情です。



佳作 (25名) 賞金1万円と楯



入選 (300名) 記念品 (2千円相当) と楯

- 北海道**
 - 長谷信良 (札幌市)「昼寝」
 - 益田良一 (札幌市)「遊ぼう!!」
 - 長尾 清 (北広島市)「一緒に撮って!!」
 - 三久雄 (函館市)「戯れ」
 - 宇都宮和雄 (函館市)「さえすり」
 - 齋藤辰也 (帯広市)「バーニイ大好き♡」
 - 大内香織 (帯広市)「ふたはひとつ」
 - 佐藤美奈子 (帯広市)「スポットライト」
 - 村中久美子 (帯広市)「もっと高く!!」
 - 森 昭 (釧路市)「丹頂鶴のねくら」
 - 勝山重雄 (釧路市)「誕生間近の丹頂の卵」
 - 齋田テリ子 (恵庭市)「アイル、ビリー」
 - 末岡美樹 (恵庭市)「攻撃」
 - 加賀屋 茂 (苫小牧市)「僅かな水面」
 - 福田明広 (河東郡)「朝の散歩」
 - 青森県**
 - 地名一二三 (青森市)「寒い日」
 - 安藤 知 (青森市)「3イソ これ僕タカタルだよ」
 - 相馬 勉 (弘前市)「わたしのペットよ」
 - 山口和男 (南津軽郡)「親子」
 - 岩手県**
 - 栗城高志 (一関市)「産卵」
 - 宮城県**
 - 星 俊行 (仙台市)「無題」
 - 三浦信也 (石巻市)「水族館」
 - 佐藤ひろみ (黒川郡)「一緒にねんね」
 - 永井史州 (黒川郡)「カモさん家族」
 - 秋田県**
 - 石塚則夫 (秋田市)「ワンちゃんのお見舞い」
 - 石塚由紀子 (秋田市)「仲よし」
 - 佐々木 茂 (大曲市)「まなざし」
 - 久保一重 (湯沢市)「ふれあい」
 - 川村康之 (湯沢市)「雪に遊ぶ」
 - 奥田静子 (由利郡)「仲よし」
 - 山形県**
 - 加藤健一 (酒田市)「野鳥の歓迎。」
 - 遠藤かつみ (鶴岡市)「眠いんだから、うるさい!!」
 - 小野政信 (鶴岡市)「白鳥見学」**
 - 茨城県**
 - 水崎 保 (水戸市)「氷上の奇遇」
 - 増井寿美恵 (水戸市)「大好きなチュウ」
 - 野毛 博 (鹿嶋市)「まなざし」
 - 滝 恵美子 (日立市)「おや? ちよっだい」
 - 糸賀 達 (龍ヶ崎市)「ひととき」
 - 群馬県**
 - 大岡雅人 (高崎市)「走る」
 - 菊池昭次 (前橋市)「キアゲハ」
 - 渡辺成治 (前橋市)「遊んでね」
 - 高橋昌平 (富岡市)「ペーリング」
 - 渡辺一雄 (館林市)「宝もの」
 - 対比地 英雄 (太田市)「トレーニング」
 - 飯塚 篤 (甘楽郡)「マルちゃんサイクリング」
 - 埼玉県**
 - 上原 操 (越谷市)「うさぎとカメ」
 - 安齊悦江 (越谷市)「うれしい うれしい」
 - 竹野千秋 (越谷市)「仲間」
 - 小田島 昌子 (越谷市)「夏の日」
 - 榎本喜夫 (入間市)「対決」
 - 大沢豊夫 (桶川市)「とって、なにかよし」
 - 中田英夫 (熊谷市)「心の友」
 - 堀口三郎 (熊谷市)「ともだち」
 - 久下泰一 (狭山市)「ナイス キャッチ!!」
 - 佐藤和成 (所沢市)「遊んでちよっだい」
 - 金子敏子 (日高市)「寒い朝も」
 - 加藤和子 (深谷市)「退屈」
 - 小松原 博昭 (北足立郡)「怒の外は?」
 - 小林英樹 (児玉郡)「親子」
 - 吉村康則 (児玉郡)「さあ集って」
 - 高野成等 (比企郡)「あっちむいてホイ」
 - 千葉県**
 - 清水信一郎 (千葉市)「涼しい〜」
 - 行川清隆 (千葉市)「御神馬走る」
 - 戸村良子 (千葉市)「カワセミ」
 - 奥田真純 (柏市)「本日晴天」
 - 東京都**
 - 内野末雪 (目黒区)「あなたが、気持ちいい」
 - 清水 昭 (新宿区)「アヌー、リベルテ」
 - 坂本義治 (足立区)「カタツムリの家族」
 - 飯田弘美 (江戸川区)「アシアワセ」
 - 利田和也 (大田区)「相棒」
 - 寺口栄一 (大田区)「シマリスちゃんに」
 - 青戸好江 (立川市)「ねえ、遊ぼうよ〜」
 - 若本好信 (八王子市)「桃の花咲く頃」
 - 満島木 久 (八王子市)「あまらせて!!」
 - 池口 保 (八王子市)「サイイ(ルースより)」
 - 白井洋子 (羽村市)「お手をどうぞ!! 無視!!」
 - 立花栄二 (日野市)「桜の樹の下で」
 - 岩山知子 (福生市)「らくちん」
 - 井上正夫 (町田市)「どこ見てるの?」
 - 吉川文晴 (武蔵村山市)「ネコのポーズ」
 - 今関真二郎 (大島)「おねだり」
 - 神奈川県**
 - 金子キミエ (横浜市)「オイチ?」
 - 山田光一 (横浜)「水遊び」
 - 小川佐恵子 (茅ヶ崎市)「おいしいな」
 - 中村仁美 (厚木市)「あ、見つかった!!」
 - 本田健也 (伊勢原市)「あーっ おいしい」
 - 峰尾 寿 (小田原市)「僕船長」
 - 水口之孝 (川崎市)「Walking the Beach」
 - 尾崎 匡 (相模原市)「なかよし」
 - 時田正義 (相模原市)「ペットも参加」
 - 大久保恒之 (相模原市)「ニャンとも、どうも」
 - 鈴木岳人 (秦野市)「なに もってるの?」
 - 栗原栄子 (秦野市)「お散歩」
 - 望月のりよ (南足柄市)「ちよっかい」
 - 山梨県**
 - 標 義也 (甲府市)「オイ! あそぼうぜ!!」
 - 三井孝司 (中巨摩郡)「だんらん」
 - 中村多恵子 (中巨摩郡)「仲良くするんだヨ」
 - 阿井美代子 (中巨摩郡)「いち、にい、さん」
 - 渡邊 田千雄 (南都留郡)「羽はたくNo.3 (キジ、オス)」
 - 富山県**
 - イシテ マサヒロ (富山)「寝むれ〜寝むれ〜」
 - 藤井むつみ (高岡市)「天下泰平」
 - 水元慎治 (水見市)「イトンボの産卵」
 - 酒井邦雄 (中新川郡)「元気になるってね」
 - 堀カズヒト (西砺波郡)「いたすらすら小娘」
 - 玉生康博 (南砺市)「只今子育て中」
 - 石川県**
 - 安田 務 (金沢市)「Happy Birthday to dear LUCKY」
 - 福井県**
 - 伊藤邦夫 (坂井郡)「一触即発」
 - 長野県**
 - 横田佳広 (松本市)「母鳥と子雀」
 - 鈴木輝子 (松本市)「ちよっとい思」
 - 角南俊文 (松本市)「フルブルッ」
 - 横林律子 (松本市)「すー〜」
 - SURASAK PHROMROJ (松本市)「[WARM IN WINTER]」
 - 高橋博幸 (長野市)「ナイスシュート」
 - 加藤 業 (塩尻市)「全員集合」
 - 大熊政彦 (飯山市)「聞く人ボクだけ」
 - 深尾みゆき (伊那市)「楽しいよ」
 - 小林理恵 (須坂市)「仲よし」
 - 大島長寿 (北佐久郡)「あ!! 逃げられた」
 - 應 時華 (北佐久郡)「馬」
 - 後藤賢次 (下伊那郡)「花の中で」
 - 井出哲哉 (埴科郡)「ほくの方が早い」
 - 滋賀県**
 - 片月敏雄 (大津市)「散歩」
 - 三上発代 (守山市)「ハマクマノミの親子」
 - 富田 定 (甲賀郡)「私のパートナー」
 - 小川 正 (野洲郡)「眼光」
 - 京都府**
 - 山田喜彦 (京都市)「発達」
 - 中谷良子 (宇治市)「みんなでお昼寝」
 - 白木美治 (加佐郡)「田植えの日」
 - 伊達貞彦 (与謝郡)「いってらっしゃい」
 - 大阪府**
 - 高岡 万機子 (大阪市)「ミラー」
 - 高野美矢子 (和泉市)「あ〜らよと」
 - 池田貞夫 (和泉市)「春の散歩みち」
 - 藤原公彦 (茨木市)「なかよし」
 - 西 秦宏 (河内長野市)「届くかな?」**
 - 中村幸雄 (堺市)「お昼時」
 - 西田 澄 (堺市)「ミルク・タイム」
 - 大田 剛 (吹田市)「鯉池の猿」
 - 井上満美 (富田林市)「外に出たいね」
 - 細川三重子 (箕面市)「春らん漫」
 - 平井節夫 (箕面市)「ワー、可愛い」
 - 河内フジ子 (八尾市)「日暮れ時」
- 兵庫県**
 - 中野寛司 (神戸市)「やあ!」
 - 山内知子 (神戸市)「ふれあい」
 - 木村隆富 (明石市)「捕獲」
 - 本村 久 (加古川市)「ボール返してよー!!」
 - 吉塚宏二 (加古川市)「初対面です」
 - 向井 寛 (川西市)「うまく写してよ」
 - 亀野秀子 (高砂市)「お花見楽しいな」
 - 本田恭子 (宝塚市)「話し相手」
 - 大塚幸枝 (西宮市)「ブルー」
 - 垣内欣哲 (姫路市)「麻衣ちゃんチャチャ」
 - 藤井昭三 (三原郡)「寒い朝」
- 奈良県**
 - 速水 美恵子 (大和高田市)「"Peace"」
 - 木村 美奈子 (生駒郡)「友愛のKiss」
 - 吉村 進 (生駒郡)「対決」
- 和歌山県**
 - 浅野 那智子 (西牟婁郡)「食事どき」
- 鳥取県**
 - 木下 美貴子 (鳥取市)「ふ〜おもしろいね?」
 - 妹尾賢次 (米子市)「すれちがう」
 - 佐野忠司 (東伯郡)「一泳ぎ」
- 島根県**
 - 大宮宏幸 (隠岐郡)「GET」
 - 名原 高 (隠岐郡)「散歩の途中」
 - 吉岡直樹 (隠岐郡)「くすぐりたい」
 - 鶴島里子 (八雲郡)「ワンちゃんも楽しいよ」
 - 吉田 進 (八雲郡)「声が聞こえるよ」
- 岡山県**
 - 丹治千栄 (岡山市)「鳩と遊ぶ」
 - 三井 美砂子 (岡山市)「考える」
 - 中平高志 (岡山市)「創作活動中」
 - 石原美紀 (岡山市)「ふれあい」
 - 出口春香 (岡山市)「ハダカのつき合い方」
 - 石井幸子 (岡山市)「ファミリー」
 - 中塚ヤスヒロ (倉敷市)「手と手いっしょに」
 - 西井由美 (倉敷市)「父さんと番犬中」
 - 萩原秀次 (倉敷市)「代掻き」
 - 二摩弘美 (笠岡市)「ボク虫でないワン!」
 - 西原嘉宣 (笠岡市)「興味津々 無関心?」
- 広島県**
 - 須藤京子 (広島市)「寒いねえ」
 - 近藤芳古 (広島市)「お昼ね」
 - 藤井達文 (福山市)「波と戯れる」
 - 金尾 富士子 (福山市)「仲よし」
 - 佐藤 麗 (福山市)「ささやき」
 - 高橋佳子 (呉市)「生後一ヶ月 記念写真」
 - 小原義明 (呉市)「朝陽の下で」
 - 近藤昌平 (庄原市)「ひと休み」
 - 黒田悦子 (安芸郡)「介護犬ララ君」
- 山口県**
 - 仲田正治 (宇部市)「おともだち」
 - 坂根博親 (宇部市)「群」
 - 金近節子 (下松市)「ア!! おくちっちゃイチャ」
 - 内藤紀一 (下関市)「雪の日の給餌」
 - 藤永祐史 (長門市)「乱舞」
- 徳島県**
 - 谷 賢太郎 (徳島市)「主人と一緒に」
 - 椎野シゲ子 (徳島市)「一緒にいようね〜」
 - 茶原 義志 (阿南市)「来ないで!」
 - 春木絹江 (阿南市)「はい、おやつよ!」
 - 宮川 茂 (板野郡)「輝く瞬間」
 - 佐野始志 (板野郡)「白鳥の親子」

カメラのキタムラ 嬉しい、かわいい、個性ショット大募集!

ペット・動物ふれあい写真コンテスト 応募総数 約7,000点

入賞作品発表!!

総評: 今回も、どの作品とも大変レベルが高く、二次審査までに入選作品を500点位に絞りこみましたが、そこがらが大変で、いつも審査会場から逃げ出したいと思う強い衝動に襲われます。応募作品の中には動物の習性を変えようとされているにもかかわらず、写真が斜めであったり、被写体が小さかったりと、残念な写真も数多くありました。またキャビネよりも四つ切りに伸ばした方がよい作品もありましたので、次回からは何枚か応募される場合は一番の自信作を四つ切りに伸ばすとよいでしょう。技術的に素晴らしい方々の力も多く応募されていますが、何よりも新しい被写体との出会いを大切に、気軽にシャッターを押してください。次回も期待をしています。



最優秀賞 (5名) 賞金5万円と楯



「夏の日」
岡垣 進 (滋賀県栗太郡)
今、カワセミの作品は多く寄せられました。この作品は、カワセミが水面上を飛んでいる様子で、水際の草むらや水際の石に落ちたカワセミの羽が写っています。シャッターチャンスが素晴らしいです。



「生誕」
山口 孔 (福岡県久留米市)
色といい、アングルといい、非常に優れた作品です。カワセミと人間の体が、まるで引き上げられたかのようにも感じられます。



「3姉妹」酒井なみ (福島県郡山市)
親子と犬の表情、背景と全体のバランスが素晴らしい。もう少し構図が広がるほど、素晴らしい作品です。



「信頼」
前山清美 (佐賀県西松浦郡)
川上宗夫 (岡山県阿哲郡)
こころ子犬の表情は、なかなか撮れるものではあらず。人物が写っていないにもかかわらず、同じ子犬に対する愛情がよく伝わっています。



グランプリ (1名) 賞金10万円と楯

「黄葉の中に」 松本 力 (三重県鈴鹿市)

寸評: これほど動きのある猿の写真ははじめて見ました。この一瞬をフレーミングの中にとらえた作者の見事なカメラアイトを拍手を送りたいと思います。

優秀賞 (10名) 賞金3万円と楯



「Bear in River with Salmon」 David B. Jack (北海道北見市)



「青い窓」古平文男 (北海道三笠市)



「おさんぽ」浅利友重 (三重県三日月郡)



「昼寝」阿部正勝 (福島県二本松市)



「蝶の髪かざり」山崎 稔 (岡山県玉野市)



「お尻を向けて」上岡ユキ (神奈川県横浜)



「細井哲」(大阪府吹田市)



「いい感じ」田川 嘉子 (大阪府堺市)



「生誕」山口 孔 (福岡県久留米市)



「3姉妹」酒井なみ (福島県郡山市)

作品づくりは露出で決まる!

監修/(株)セコニック・インストラクター 寺田克嘉氏



【作例1】

「作例1」の2枚の写真を見比べてみてください。奥にある山の残雪をきれいに写そうとすると、手前の緑は黒くなってしまいます。逆に手前の緑をきれいに写そうとすると、山の残雪は白くなってしまい、雪のディテール(この場合は質感という意味で用いています)は消えてしまいます。こうした状況の撮影では、露出補正をしても雪と新緑のディテールの双方を写しとることはできないのです。このような例は他にもあります。空がまだ薄暗い明け方、山頂で美しい朝陽を背景に雲海を撮りたいと思っても、雲海を活かそうとすると空は朝陽を中心に白っぽくなってしまい、思ったような色にはなりません。また、朝陽に薄く染まった空を活かそうとすれば、雲海は暗くなってしまいます。山の稜線が朝日に美しく映えている景色を撮る場合でも、稜線の輝きを撮ろうとすれば山の影の部分は黒く潰れてしまいます。こうした例では露出を補正しても、見えたとおりの風景を写真に撮ることができないこともあるのです。なぜ見えたとお

露出補正をしても、見た目通りの写真が撮れないことがある

たいていのAECカメラの場合、露出補正の幅はマイナス側及びプラス側に調整ができるようになっていきます。では、この補正機能を使えば、どのような被写体でもきれいに撮れるのかというと、そうでもありません。いくら露出補正しても、見た目どりに撮れない状況もあるのです。

以前にもこのコーナーで、露出のお話の特集をしたことがありました。その時には主にカメラの自動露出機構(TTLと言います)と露出補正の説明をいたしました。「写真は露出で決まる」と言っても過言ではないほど、大切なお話で、それだけに内容の深い問題です。そこで今回は、(株)セコニックのインストラクター 寺田克嘉氏におうかがいして、さらに一歩踏み込んだ露出のお話をいたします。



OUR
WORLD

人は、ときどき、鳥になれる。フィジーにて。
Andy Belcher/1948年、英国生まれ。1972年にアウトドアに魅せられてニュージーランドに移住、水中撮影カメラマンとして世界的な名声を獲得。現在は、スポーツ、ネイチャーフォトなどの領域でも広範に活躍する。
撮影データ:シグマ24-70mmF2.8 EX DG ASPHERICAL DF 1/250秒、F8

アンディ・ベルカーが世界を撮ったとき、手にしていたレンズはシグマだった。

パラセーリング、人が鳥になる一瞬をシグマが捉えた。24-70mmの画角が楽しめる新標準ズーム。全焦点距離で開放値F2.8を実現。非球面レンズを3枚、S.L.D(特殊低分散)ガラスを2枚採用し、各収差を良好に補正、高画質を達成しています。DF(Dual Focus)システム採用で操作性も向上。フォーカシング時にフロント部が回転せず、パーフェクトフードの装着が可能です。

F2.8の大口径、24ミリから始まる新標準ズームレンズ。

SIGMA 24-70mm F2.8 EX DG ASPHERICAL DF

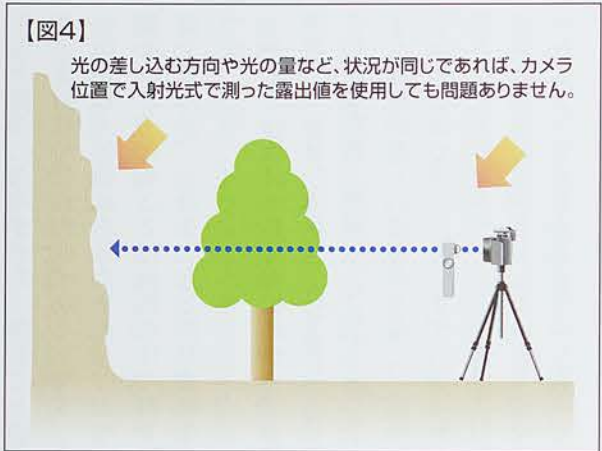
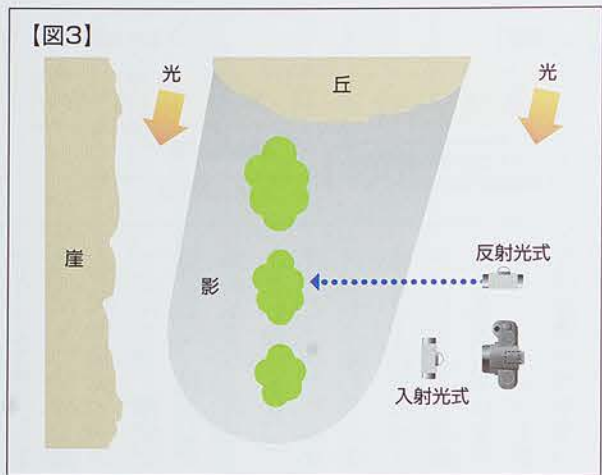
お問い合わせは、株式会社シグマ 〒201-8630 東京都柏江市岩戸南2-3-15 tel.03(3480)1431まで。シグマ ホームページアドレス <http://www.sigma-photo.co.jp>

NEW



●AF希望小売価格(税別):79,000円、ケース・パーフェクトフード付、シグマSA用、キヤノンEOS用、ニコン用、ミノルタ用、ペンタックス用

作品づくりは露出で決まる!



フィルム再現の難しいコントラストの高い被写体を撮る場合、明るい部分と暗い部分のどちらを活かせばいいのでしょうか。結論から先に言いますと、それを決めるのは撮影者自身なのです。

部分的に白くなってディテールが消えてしまっている写真が、すべて悪い写真というわけではありません。また部分的に黒く潰れている写真がすべて悪い写真ということもありません。写真の善し悪しは、撮影した人が何を撮影しようとしたのか、何を表現しようとしたのか、見る側に伝わるかどうかで決まります。

「作例2」の写真をみてください。これは岩肌の前に立つ松の木を撮影したものです。(図3) この撮影の主人公は日陰になった松の木です。松の木がシルエットとして明確に描写されていた方が撮影意図は伝わりやすくなります。そこでシルエットの木を生かすため、崖を露出よりも明るく撮影することにします。

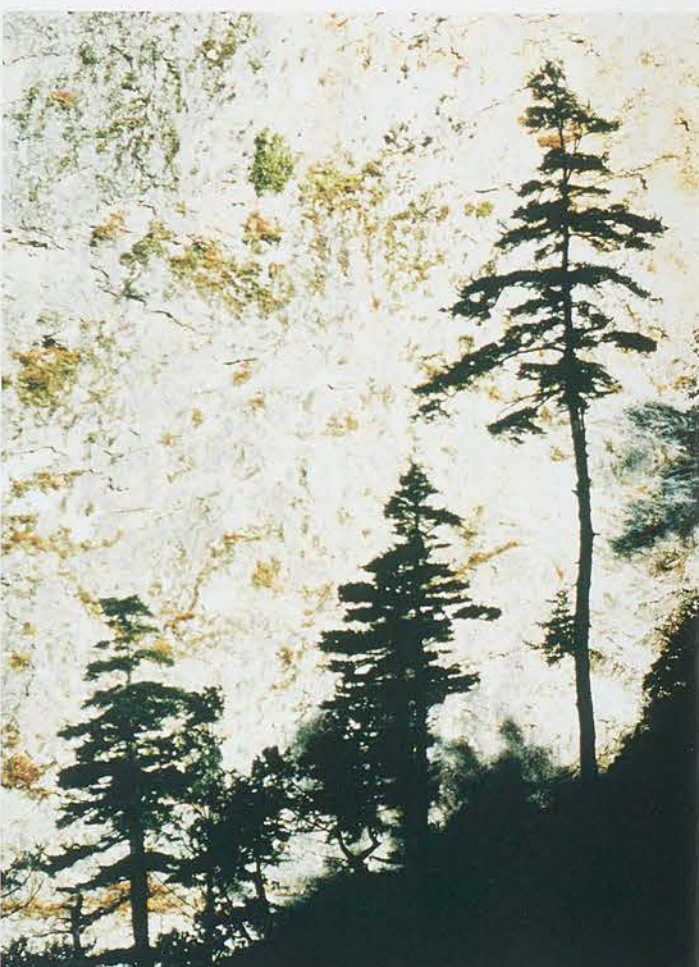
露出の測定方法には反射光式と入射光式があり、被写体が反射している光の量を測定するのが反射光式で、AEカメラ

の自動露出機構もこの方式を採用しています。これに対し、被写体に当たっている光の量を測定する方法が入射光式です。この場合、反射光式ですと崖の岩肌の

反射率を考えて補正値を作画意図に合うように考えなければなりません。入射光式なら、測定した値から1段絞りを開いた値で露出すれば、崖は1段露出オーバーになり、崖のニュアンスを残しながら実際より明るくすることが出来ます。

こう説明すると「おや」と思われる方もいるでしょう。入射光式をご存知の方の中には、入射光式では被写体の前に行かないと測光できないかと思われている方が多いようですが、カメラが置かれている場所の光の当たっている状況が、被写体の状況と同じ場合には、カメラ位置で入射光式で測定した値を、被写体の露出値として使用しても、何ら問題はないのです。(図4)

こうして入射光式で木のシルエットを生かせる露出を求めることができました。次にシルエットがちゃんと潰れているか



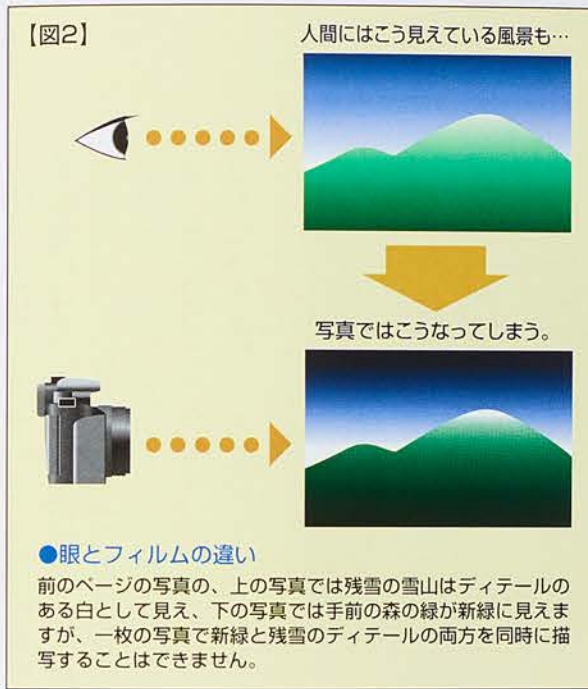
露出は撮影者が決めるもの

ればなりません。このように上手な写真を撮るためには光と影、コントラストとフィルムの再現域の理解が重要になってきます。

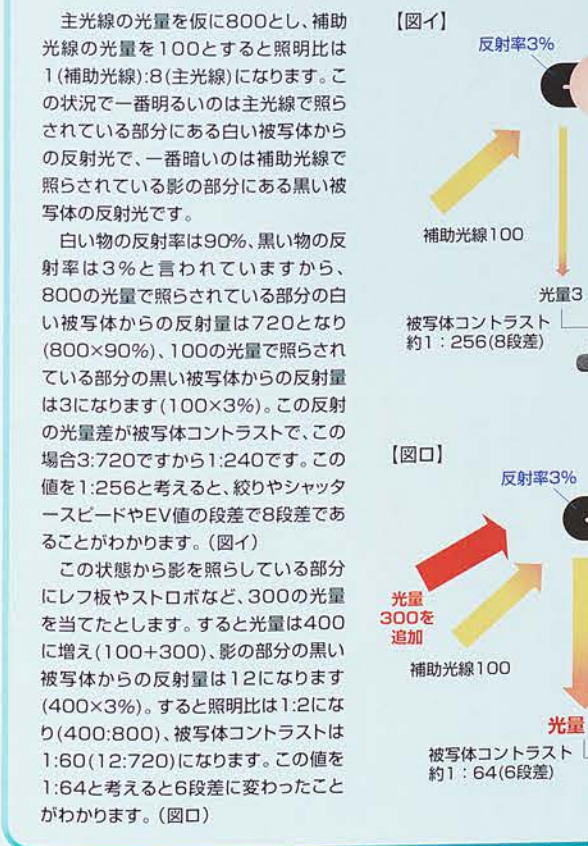
すから撮影者の意図したことが伝わるのなら、画面の中にディテールが消えている部分があっても問題はないのです。つまり露出から見た優れた作品とは、撮影者が狙った被写体、狙った部分に露出が合っている写真なのです。

ここではちょっと変わった例を紹介いたします。

この状態から影を照らしている部分にシロ板やストロボなど、300の光量を当てたとします。すると光量は400に増え(100+300)、影の部分の黒い被写体からの反射量は12になります(400×3%)。すると照明比は1:2になり(400:800)、被写体コントラストは1:60(12:720)になります。この値を1:64と考えると6段差に変わったことがわかります。(図0)



照明比(ライトコントラスト)と被写体コントラストの関係



りに写すことができないのでしょうか? **フィルムで再現できるコントラストには限界がある**

写真は光が重要なファクターです。今回はこの光の中でも、特に照明比(ライントラスト)と被写体コントラストについて考えてみましょう。また、この被写体コントラストがフィルムの再現域とどうかかわっているのかも考えてみましょう。

まず照明比というのは、たとえば晴れた日の太陽の直射光を主光線とすると、日陰は空やまわりの建物などからの反射光で照らされている補助光線と考えることができます。この場合、主光線と補助光線という2種類の光で照らされていることになり、それぞれ光量が異なっています。その光量差を比で表したものが照明比です。この照明比が大きいと被写体

コントラストも大きくなります。フィルムで再現できる明暗の差を比で表すと、カラーリバーサルフィルムは1:32(5段差)と言われていて、これ以上の明暗差を持つ被写体(被写体コントラストが大きい被写体)は、フィルムでは再現しきれない部分が生じて、どこかが飛ばか潰れてしまいます。

なぜこのような写真になってしまうのかというと、フィルムが再現できるコントラストの範囲が、人間の目が認識できるコントラストの範囲よりも狭いためなのです。(図1)

このため、目で見てわかるディテールでも、写真では再現できないということが起こります。(図2)

ですから、コントラストの高い被写体を撮影する場合には、作画意図に最適な被写体コントラストを選んで撮影しな

露出計を使って照明比を測定する方法は、入射光式に白色平板を取り付けるか、または平板機能にして(セコニックの商品の場合、L408、508、358、608などは光球を沈めて)被写体位置で測定します。具体的には①のように、露出計を主光源の方向に真正面になるように向けて測定し、F値を読み取ります。次に②のように、露出計の正面をカメラの方向に向け、手などで庇を作って影の部分の光量を測定してF値を読み取ります。

たとえば図イの照明比が1:8の場合に、①の値が仮にF11だったとすると、②はF4を示します(F4とF11は絞りで3段差で光量では8倍差、つまり照明比は1:8になるのです)。図ロの照明比が1:2の場合ですと、②の測定値はF8を示します(F8とF11は絞りで1段差で光量では2倍差、照明比1:2)。

この測定法の絞りの段差と照明比の関係を示しますと、

絞りの段差	照明比	絞りの段差	照明比
1段	1:2	3段	1:8
1段半	1:3	3段半	1:12
2段	1:4	4段	1:16
2段半	1:6		

となり、照明比が大きくなるほど被写体コントラストも大きくなりますので、フィルムで再現できない(ハイライトが飛んでしまったり、影の部分が潰れてしまったりする)部分が多くなってきます。このため、作画意図(写真の仕上がり、階調、描写など)に応じて被写体コントラストを調整したり、露出値を決定しなければならないのです。

作品づくりは露出で決まる!

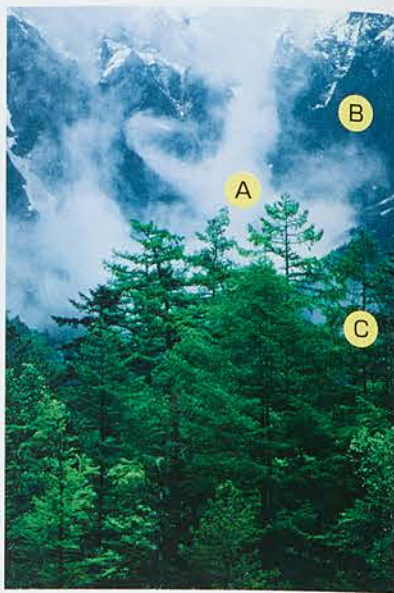
①まず、普通にカメラの自動露出で測光したときの絞り値が、仮に5.6だったとします。この場合、14以上の明るさの部分は白く飛んでディテールは出ません。(図A)

②単体露出計(スポットタイプ)の反射光式で、白い蒸気(A)の部分を測光します。この値が仮に19だったとします。すると現在の絞りのままでは蒸気部分は白く飛んでディテールは再現されません。(図B)

右ページの【作例3】を見てください。新緑の向こうに白い蒸気が立ち上っています。この白い蒸気のディテールを出すことを想定してみます。

単体の露出計を使った露出値の求め方

部分測光をすることができ、露出のミスを防ぎ、自分の意図した写真を撮りやすくしてくれます。では、次に露出計を使った撮影の実際を、作例で説明いたします。



③そこで蒸気を少しディテールのある白として再現するためには、図Cのように絞りを9.5にするとよいのです。(測定値19から絞りを2段階開くプラス補正。被写体が明るかったり白かったりする場合は補正です。なお、もっとディテールのある白にしたい場合は、補正を1段階半にして絞り11にすればよいのです。)(図C)

蒸気はこれで撮れるようになります。しかし、ここで注意しなければならぬのは、暗い部分ではディテールが再現できる下限が4まで上がっていることです。もし、背景の山肌(B)や手前の新緑(C)までディテールを再現したいのであれば、これらの部分の露出値が4以上でなければなりません。

このように露出計は肉眼ではわからない、写真にしたときのカメラ位置やフレミングの問題点を教えてくれることも多々あるのです。露出計でただ露出を計るのではなく、積極的に露出計を活用して、より良い作品作りをチャレンジしてみてください。

露出計は露出を決めてくれるものだと考えている方が多いと思います。しかし実際は、カメラの自動露出機構を使用するにしても、また単体の露出計を使用するにしても、いずれの場合でも露出計は単に光の量を数字に変えているにすぎません。露出を決めているのはあくまで撮影者です。ですが露出計は、同時に人間の目と写真の差を教えてくれる、頼りに



【作例3】

状況になっていきます。つまり、コントラストがより大きくなる照明状況が、この場合は必要になります。カメラの自動露出は便利ですが、たいの風景は自動露出できれいに撮ることができません。しかし、実際には一つの画面が一つの露出値で構成されているこ



どうかを確認しなす。(図5) 反射光式(スポットタイプ)でシムエット部分を測定して、決定した露出値より3段以上小さい値であれば、潰れていることになりません。(図6) この場合は1段階露出オーバーになるように露出を決めています。また露出の難しい被写体を前に、露出値を決めかねて迷ったなら、まず自分は何を撮ろうとしているのか、何を強調すれば、自分の撮影意図がより伝わるようになるのか、そのことを考えるようにしましょう。

露出をコントロールするために露出計をもっと活用しよう

実際にはどうやって画面の部分部分の露出を計るのでしょか。現在のA Eカメラにはスポット測光(カメラによって

は部分測光)という測光機能が搭載されていますので、これを利用することもできるのですが、単体露出計があるとずっと便利になります。

では、A Eカメラが搭載している露出機構と単体露出計ではどこが違うのでしょうか。

●単体露出計の特徴

- ①測光角度が一定で狙ったポイントを測光することができる
- A Eカメラの場合、たとえば多分割測光を使用した場合でも、レンズを変える範囲が変化してしまいます。しかし、単体の露出計であれば、カメラとは連動していませんのでレンズが変わっても測光範囲は変化しませんから、どんな遠距離でも狙ったポイントの露出値を計ることができま。
- ②明るい部分と暗い部分の露出差を計るのが容易(受光角度の狭いスポットタイプの時)
- カメラと連動していないもう一つのメリットとして、画面の明るい部分と暗い部分とは、どれだけ露出値が違うのかを知る場合でも、いちいちカメラを動かす必要がありません。フレミングはそのままに、被写体の細かい露出値の測定ができます。
- ③露出値が変わりやすい状況での部分測光が容易

なるアドバイザーであり、ナビゲーターでもあるのです。

被写体コントラスト(照明状況)とフィルム再現域、露出計のデータと露出値を関係づけて理解し、作画意図に応じた露出値を決めて、作品づくりを目指してください。さて、最初の2枚の写真を見

比べてください。この照明下でそれぞれに最適なフレミングをするとして、あなたならどちらの露出を選びますか? 残雪を選びますか? 新緑を選びますか? 答えを出すのはカメラの前に立ったときの読者自身です。それが写真の醍醐味なのです。

④入射光式で測定できる

⑤露出演算がやりやすい

測定値から情報を読み取り、作画意図に応じた露出決定がやりやすい。

先の木のシムエットの作例のように、単体露出計(スポットタイプ)では簡単に



SEKONIC

ファインダー内に撮影情報が見える
“一眼ズームの最高峰”

新製品
スーパーズームマスター L-608
希望小売価格 93,000円(税別)

【主な特長】

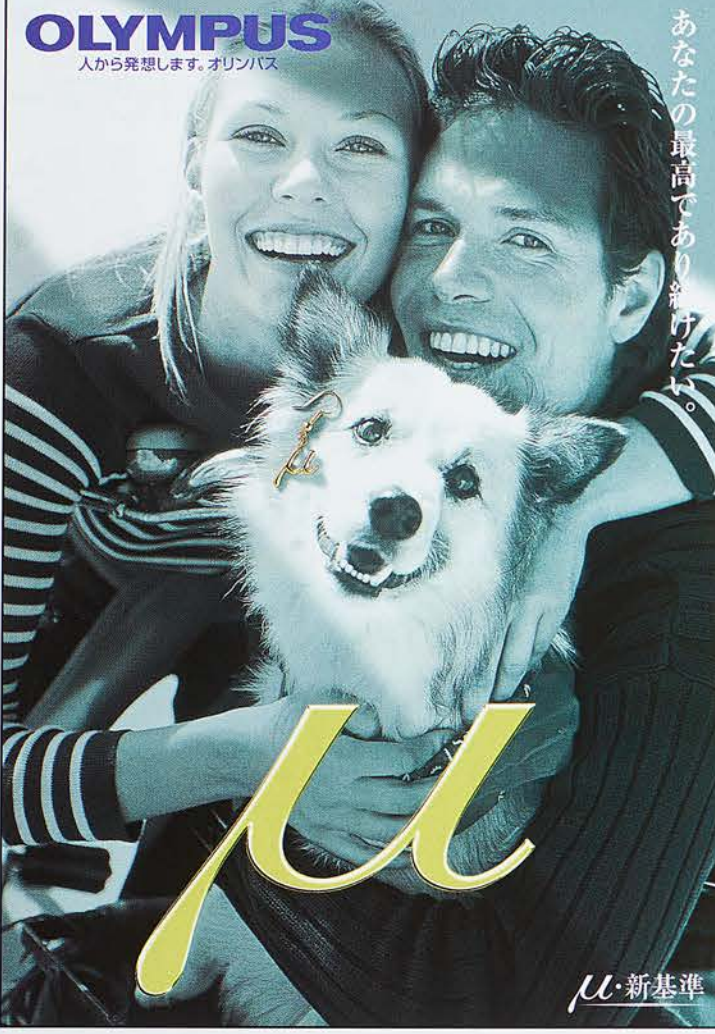
- ①「一眼ズーム(1~4)」の視野内に撮影情報を常時表示
- ②分離測光システム
- ③露出計側からフラッシュを発光させることが可能
※別売RT-32とRR-4またはRR-32が必要です。
- ④絞り優先モードでもメモリー表示可能
- ⑤メモリーとメモリー表示が9点まで可能
- ⑥シャッター速度と絞り値が1/2又は1/3ステップで設定可能
- ⑦レンズ部にフィルター装着が可能
※別売ステップアップリングが必要です。

※カメラのキタムラの店舗によっては、製品がない場合がございます。あらかじめご了承ください。

新機能満載、入射光主体
デジタルタイプの最高峰
フラッシュマスター L-358
希望小売価格53,000円(税別)

3種類のNPファインダー(別売)で反射光測定も可能。
(受光角1°、5°、10°の3種類を選ぶことができます)
※1°のNPファインダーは近日発売予定

ポートレートから風景まであらゆる被写体に対応する
ズームマスター L-508
希望小売価格 68,000円(税別)



あの美しいミューに、
超高倍率170ミリズームを
搭載しました。



- エレガントなフォルムで迫力の170mmズーム。
- 高画質を約束、「EDレンズ」採用。
- 2つのオートフォーカス機構でシャープなピント。
- 「撮れた!」がわかるビジュアルファインダー搭載。
- 雪や水しぶきも安心の生活防水付。

美しさだけでなく、機能だけでもない。
μ [mju:] II 170 vF
希望小売価格(税別) ¥50,000 (リモコン・ソフトケース・ストラップ付)

Visual Uniqueness
ビジュアルユニークネス

特別取材 中橋富士夫氏に聞く

旅や自然を愛する方々が 10年楽しめる写真集

掲載写真総点数865点というスケールの大きな写真集『風景写真撮影全科』が、この度発売されました。しかもこの写真集は写真を愛する方々はもとより、旅好きの方々からも強い支持を受けているといえます。カメラのキタムラではこの写真集に注目し、発行された写真家の中橋富士夫先生に取材させていただき、お話しをうかがうことができましたので、緊急報告として紹介させていただきます。



なかはし ふじお
1944年東京生まれ。1968年日本大学芸術学部写真学科卒業後、オリオンプレスにカメラマンとして入社。1986年にオリオンプレスを退職しフォトライブラリー・テイキングを設立。1990年テイキング事務所を設立。フォトテクニック誌に「新日本百景」を3年間連載。現在、沼津に撮影拠点をもち、富士山ほか日本各地を撮影中。写真集に『風景紀行・秋』(グラフィック)『写真撮影全科』『海外旅行』『四季日本』(ぎょうせい)など多数。1998年初のCD-ROM写真集『パノ』世界があこがれる風景(シンフォレスト)刊行。

より多くの作品を見ることが、
写真を上達させる秘訣なんです。
中橋先生が865点というスケールの大きな写真集を発行した理由には、写真愛好家に向けたあたたかい心づかいがありました。「写真は色々な作品をたくさん見る方がいいのです。構図や露出や撮影条件の違う写真を見ていくうちに、今の自分の写真には何が足りないのか、どうすればもっといい写真が撮れるようになるのか、少しずつ分かってくるのです。しかし、写真愛好家の方々にはなかなかそれだけ多くの作品を二度に見る機会がありません。私はこの写真集で、写真愛好家の方たちにもそうした機会を提供したいのです」
中橋先生がこれまでに、ご自身がファインダーを通して見つけてこられた無数の風景を、惜しげもなく写真愛好家の皆さんのために公開したのが、この『風景写真撮影全科』なのです。
それが写真なんです。
中橋先生は日本や世界を旅して、被写体となる風景を探し求めてきた経験から、「私は旅や自然を愛する方々に、もっと写真を勧めたい。自然風景とより親密に語り合う方法、自然風景をより楽しむ方法、それが写真なんです」とおっしゃいます。
「風景写真を撮るといふことは、その風景の美しさを探る行為でもあるんです。つまり自然風景にカメラを向けることで、風景とじっくり対峙するようになる。私は特に一眼レフカメラをお勧めします。一眼レフはレンズとフィルムを選ばなければなりません、そのプロセスか

自然と深く対話する行為、それが写真なんです。

らすでに自然風景との対峙が始まっています。それは写真以外では味わうことのできない楽しさで、皆さんにもぜひ、それを体験して知ってもらいたい」
旅を愛する方々のために、写真を愛する方々のために、様々な工夫が凝らされた写真集。
この『風景写真撮影全科』には、従来の写真集とは異なる先生の様々な工夫が盛り込まれています。「旅好きな方、自然を愛する方々にも充分に楽しんでいただけるように気を配りました。この写真集の中には皆さんのまだ見たことのない風景が必ずあるはずです。実際、旅好きなご婦人から「この1冊で10年は楽しめます」という賛辞をいただきました」
もちろん写真好きの方が参考になるような、多くの工夫も凝らされています。
「様々なシーン、様々な撮影条件の作品を網羅しています。また、同じ場所でも条件を変えて撮ったものを並べて、見比べることができるようにもしました。収録した作品のすべてに撮影データと私のコメントを入れましたし、撮影時の天候条件もデータとして記載しています。コメントだけ読んでも楽しんでいただけたらと思いますよ」
旅を、自然を、写真を愛する方々のために出版された『風景写真撮影全科』。皆さんもぜひ一度、その目でお確かめください。



『風景写真撮影全科』より「白糸の滝」(長野県軽井沢)

撮る快感。MZ-Sデビュー。

めざしたのは、人とカメラの一体感。高度なスペックよりも、基本的な機能を徹底して研ぎ澄まし、カメラを人の身体の一部にまで昇華させること。すぐれた道具としての進化はこうあるべきだ、とペンタックスは考えます。斬新なフォルムは、その思想からみちびかれたひとつの必然。両手の親指で操作できるダイヤル、かつてないタッチのシャッターボタン、自然に操作できる電子プレビューボタンなど、撮る道具としての進化をディテールにまで求めました。被写体に向かうとき、ファインダーは眼の一部となり、すべての操作系は手の延長となって機能します。

PENTAX

5月26日新発売

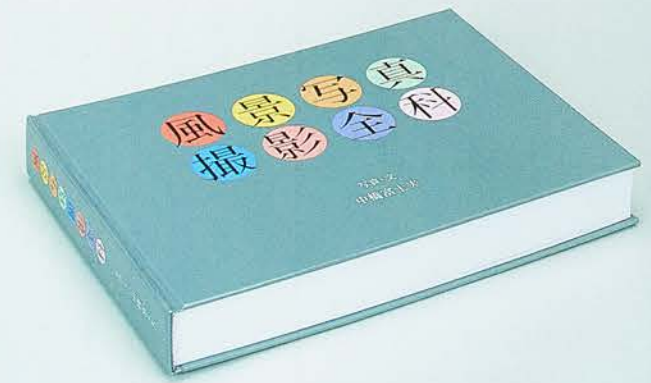
MZ-S

●コントロールパネルを30度傾斜させた斬新なボディ形状 ●堅牢なマグネシウム合金の外装 ●質感のよい小型軽量ボディ ●電子コントロールに、アナログの見やすさを加味した操作系 ●フィルムのパーフォーレーション間に撮影データが印字可能 ●最高1/6000秒、シンクロ1/180秒の高速シャッター ●暗いところでのレンズ交換を容易にするマウント指標照明 ●19項目のペンタックスファンクション ●縦位置のホールド性にすぐれたバッテリーグリップなど多彩な専用アクセサリを用意

●MZ-Sボディ(ブラック/シルバー)希望小売価格(税別).....135,000円 ●FAスーム42mmF3.5~90mmF4.5AL(IF)付希望小売価格(税別).....194,000円

●製品についてのお問い合わせは、お客様相談室へ。03(3572)6479 ●カタログご希望の方はハガキで、必ず機種名を明記のうえ、〒100-8692東京中央郵便局私書箱895号ペンタックス販売株式会社カタログ係へ。 旭光学工業株式会社 ペンタックス販売株式会社

『風景写真撮影全科』写真・文/中橋富士夫
●A4版オールカラー ●豪華上製本仕上げ・糸かがり ●456ページ(写真点数865点)
●販売・フォトアート館 ●発行・(有)ジェイ・ビー
ヤマトコレクトサービスのみの販売です。
『風景写真撮影全科』は書店では販売されておりません。ご購入をご希望の方はお近くのカメラのキタムラにお問い合わせください。



●代金 (消費税込)

配達地域	写真集代金	運賃	代引手数料	ご購入総額
北海道 沖縄	6,000円	1,260円	315円	7,575円
北東北 四国 九州	6,000円	950円	315円	7,265円
南東北 中国 関東	6,000円	840円	315円	7,155円
信越 北陸 中部	6,000円	740円	315円	7,055円
関西				

インターネット プリントサービス

デジカメプリント
基本料金無料

あなたの写真生活応援サイト
kitamura.co.jp
撮る!見る!買う!知る!仲間ができる!

デジカメで撮影した画像が
パソコンからインターネットを使って
プリント注文できます!

ネットデジカメ
プリント
基本料金無料

1枚 **35円**
(DSC・Lサイズ)

ネットポストカード
プリント

1枚 **50円**
(30枚以上)

基本料金 1件 1,200円+ハガキ代(1枚50円)

高品質
フジカラー
プリント

全国560店の
カメラのキタムラの
店頭でお渡しします!

1 キレイ長持ち!

高品質な銀塩プリントだから、ご家庭のプリンターに比べ、圧倒的に美しく、長持ち。

2 イライラ解消!

プリンターで印刷する時の「イライラ」から開放され、面倒な出力が不要です。

3 安心! 便利!

お近くの「カメラのキタムラ」で受け取って、代金をお支払いいただくので安心便利。

フジカラーCDからでも注文できます。

- ①フィルム1本の全コマをお手軽価格でCD-Rに書き込みできます。
- ②CD-R1枚に、フィルム5本までOK!



くわしくはこちらへ!

キタムラのご案内 インターネットでお買い物 ご意見窓口
www.kitamura.co.jp

RICOH

高次元の描写力。



GR1sの主な特長 ●GR LENS 28mm F2.8は、非球面レンズ採用、4群7枚オールガラスのマルチコーティングで優れた描写力 ●暗い状況下での撮影にとても便利な光る情報パネル ●逆光時の撮影に重宝する本格的な花型フードを装備 ●ナチュラルな画像を生むディストーション性能の良さ ●ニュートラルな発色のCCI 分光透過率 ●高精度7ゾーンバツシブ方式マルチオートフォーカス ●美しいボケ味のために考慮された7枚構成のレンズ 絞り羽根 ●シンプルで明るいブライトフレームファインダー ●絞り優先AE ●露出補正ダイヤル ●主な撮影モード: フラッシュ強制発光モード(日中シンクロ/スローシンクロ可) ●フラッシュ発光禁止モード ●オートフラッシュモード ●遠景モード ●シングルAF(LV6以上中央重点測光)モード ●スナップモード ●フォーカス固定モード ●赤目軽減モード ●セルフタイマーモード ●タイムモード等

GR1s (ボディカラー:ブラック/シルバー)
●メーカー希望小売価格(フード・革ケース込)
GR1s ¥95,000(税別)
GR1s DATE ¥105,000(税別)

リコーカメラお客様相談窓口 リコーカメラについてご意見・ご希望がございましたら下記までご連絡ください。

〒104-0061 東京都中央区銀座6-14-7 株式会社リコー カメラサービスセンター内
FreeDial 0120-007962 ●受付時間 月曜から金曜/9:30~17:00
●土曜・日曜・祝日はお休みさせていただきます。

カメラのキタムラ企画

プロカメラマンが同行するフォトツアー

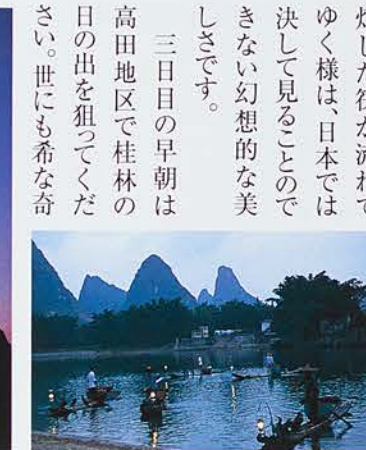
桂林5日間の旅



悠久の歴史に育まれた中国。そのあまりに広大な国土は、数えきれぬ奇勝に恵まれた被写体の宝庫でもあります。中でも、世界にその名が知られている奇勝中の奇勝、桂林は、過去、無数の画家や写真家が訪れ、その不思議な幽玄の景観を作品に残してきました。このたびカメラのキタムラでは、この世界無双の奇勝に皆さんをお連れするフォトツアーを企画いたしました。今回はそのフォトツアー「中国の奇勝～桂林～水墨画の世界」を、読者の皆様に少しでもご紹介いたします。



高田地区の日の出



鸚鵡船

悠久の大地と世界無双の奇勝を、撮影本意のゆつたりとしたスケジュールで!

桂林は無数の奇岩を背景に、中国の漓江に広がる農村で、日本からは午後関西空港から広州へ渡り、その後国内線に乗り換えて夜に桂林に着きます。長旅の疲れを引きずりながらの撮影行では、良い写真も撮れません。初日はそのままゆっくりと桂林でお休みいただきます。

二日目は早朝より竹江周辺での撮影を予定しております。竹江は桂林の奇岩を背景に、のどかな田園風景が広がっています。中国の悠久の大地を、やわらかな光の中で存分にお楽しみください。

朝食後は漓江沿いの村々を撮影しながら川下の陽朔へ向かいます。夕方には陽朔周辺で鸚鵡船を撮影いただけます。桂林の奇景をシルエットに、薄暮の漓江に明かりを灯した筏が流れてゆく様子は、日本では決して見ることできない幻想的な美しさです。

三日目の早朝は高田地区で桂林の日の出を狙ってください。世にも希な奇勝です。

四日目は撮影をしながら再び桂林へ向かい、国内線で広州へ向かいます。この日も無理に強行することなく、広州で泊し、翌日午前中に関西空港に戻ります。

勝が朝の陽光に染まり、徐々にその姿を表してゆきます。太古から繰り返されてきた大地と空の雄大な営みを堪能いただけます。

この日は終日ゆつたりと陽朔周辺を撮影していただく予定です。日本ではあまり見かけない草花や、懐かしい農村風景が広がっています。のどかに草をはむ牛、畑仕事に精を出す中国の土に生きる人々、背景はもちろん桂林。スナップを楽しまれるのもよし、奇勝の撮影ポイントを探るのもよし。思い思いにじっくりと、中国の被写体と対峙してください。

四日目は撮影をしながら再び桂林へ向かい、国内線で広州へ向かいます。この日も無理に強行することなく、広州で泊し、翌日午前中に関西空港に戻ります。

写真のことを知り尽くしたカメラのキタムラならではの企画です!

この全行程にわたって、撮影指導として写真家の山本先生に同行いただきます。先生は大阪芸術大学在学中より写真家として高名な高田誠三先生に師事され、数々の優れた風景写真を撮り続けておられます。また富士フィルム、キヤノンEOS学園等多くの写真教室で、アマチュアカメラマンの育成にも力を注がれており、そのきめ細かな判りやすいご指導は、幅広い年齢層の方々から支持を受けています。



陽朔周辺の農村風景

中国の奇勝～桂林～水墨画の世界
山本先生と行く **桂林5日間**

- 旅行期間: 2001年8/8(水)～8/12(日) 4泊5日
- 旅行代金(お一人様): 168,000円(関西空港発)
- 一人部屋料金: 20,000円
- 募集人員: 先着30名様(最少催行人員15名様)
- 申込締切日: 7月6日(金)

お問い合わせ・お申し込みは
主催: 名鉄観光サービス(株)梅田支店 国土交通大臣登録旅行業第55号(社)日本旅行業協会正会員
☎ 06-6311-2168 (月～土・9～17時)
FAX.06-6311-6657 E-mail:ume3@osaka.mwt.co.jp 担当:水戸・吉留・池原

※撮影に重点を置いたご旅行ですので、ホテルの出発が早朝、到着が深夜となる場合もございます。又、当日の被写体の状況により、行程を変更させていただく場合もございます。
企画: (株)ラボネットワーク

ツアー中は山本先生の実践指導を受けられるのももちろん、先生のミニ写真塾も開催する予定です。また、ツアー終了後にはフォトコンテストを実施し、参加者全員の作品を山本先生に審査していただき、グラプリや賞を決定するほか、応募された全作品に先生から講評をいただいで、皆様のもとに返送いたします。

ツアーには写真に精通したベテラン添乗員も同行いたしますので、海外旅行は初めてという方でも、また、女性お一人でも安心してご参加いただけます。

参加する方々はカメラや撮影が大好きな方ばかりですので、撮影仲間を増やす絶好のチャンスにもなる、カメラのキタムラ企画のフォトツアー。皆さんもこれを機会に、ぜひご参加ください。

写友会



- 設立 1995年10月1日
- 会員数 10名
- 活動 月1回の定例会
7月の海の記念日の展示会
11月の文化祭への出展
- 場所 福岡県北九州市

写友会は会員相互の写真技術の向上と、融和を図り、写真を通じて地域文化に貢献することを目的に設立された、歴史の新しい新進気鋭のクラブ

です。会員は10名、年齢は20代から60代まで幅広く、互いに切磋琢磨しながら写真を楽しんでいます。毎月の定例会では各自作品を2点持ち寄り、互選によって順位を決めて得点を与え、年間の累計得点で金・銀・銅賞を決めて総会で表彰しています。

年間行事としては町の文化祭への出展と、7月の海の記念日に、北九州市の人気観光地である門司港レトロで、海に関する写真展の展示を行っています。今年にはさらに門司港レトロでイベントが開催される予定で、その一環として8月に当クラブの写真展が開催されることになり、現在会員は、日夜出展する作品作りに励んでいます。



小方一男氏の作品「ふじ満開」



篠原俊樹氏の作品「暁の大阪港入港スタンバイ」



井上 高太郎氏の作品「門司港レトロ停泊」

おもしろ仲間の写真会

- 設立 2001年1月1日
- 会員数 11名
- 活動 月1回の定例会
及び撮影会、講評会
- 場所 神奈川県相模原市

メンバーがユニークで楽しいので、「おもしろ仲間の写真会」と名付けました。風景や花、ネイチャーを主に撮っています。

それぞれのメンバーが思いのままに撮った写真を、わかりやすく、丁寧に講評して下さるのが、カメラマンEX誌に連載中の写真家、高橋良行氏です。

時には先生の講評に反発したり、感動したり、講評に困る作品があったりと、先生を悩ませることも度々ありますが、撮影を通しての先生との交流や、少人数ながらも個性的な作品にふれることができるのが、私たちの大切な財産だと思っています。

私たちは今、いつか写真展を開催することを夢見て、歩み始めたところです。



矢崎久枝氏の作品「霧と話した」



山田真美子氏の作品「隠れ家」

町田佐智子氏の作品「雲湧く」

フォトゼミナール月曜会

- 設立 1994年12月1日
- 会員数 26名
- 活動 月2回の定例会
年1回の写真展及び公募展
それに出席するための
研究会・撮影会
- 場所 福岡県久留米市

勤労青少年ホームで平成6年に開催された写真教室に参加したメンバーが主体となって、同年12月に設立されたグループで、月曜会の名称は例会日が月曜日ということでつけたものです。

各々の感性で作上げたバラエティーに富んだ作品が、定例会を楽しいものになっています。その作品を講師にお招きしている福岡県美術協会会員の田中正敏先生より、全員の作品の講評をいただき、県美術展や市美術展をはじめ、各種コンテストに出展、入選・入賞する

ことも年々増えてまいりました。これからは地域の写真文化の向上発展に貢献し、会員一同励まし合いながら、楽しい人生を送るとともに、会員各自の感性のさらなる研鑽により、多数の方々から写真の素晴らしさ、楽しさへの共感をいただければ幸いです。



安徳清美氏の作品「群れる」



秋枝 豊氏の作品「帰り道」



北島 泰氏の作品「砂紋」

北広島フォトクラブ

- 設立 1997年9月12日
- 会員数 25名
- 活動 月1回の定例会
年2回の撮影会
年1回のクラブ写真展ほか
- 場所 北海道北広島市



25名を数えています。毎月開いている定例会では、お互いの作品を批評し合って活発に意見を交わし、切磋琢磨しつつ各々が作品作りに励んでおります。毎年恒例の撮影会で腕を競い、クラブ写真展で活動の成果を公表し、時にはベテラン写真家の先生を講師にお招きして講習会を開くなど、様々なイベントを通じて、会員相互の親睦を第一に、趣味の写真を楽しんでおります。

会員どうしても、グループで積極的に撮影会や写真展などを催すなど、より充実したフォトライフをすごせるよう、和気藹々と元気づけ活動を展開しています。



堺 俊夫氏の作品「初雪の朝」



越田 肇氏の作品「波の貌」



山川 勉氏の作品「春耕期」



カメラのキタムラでは、今後も全国の写真クラブのみなさまをご紹介していきます。掲載をご希望の方は、お近くのカメラのキタムラまでお問い合わせください。



ズームカメラには、 ズームマスター800

世界最高のシャープネス ※感度ISO800製品の中で平成12年6月1日現在当社調べ



ズームカメラに
最適な高感度
FUJICOLOR
SUPERIA 800
ズームマスター



世界初、APSで
ISO800の高感度
FUJICOLOR
nexia 800
ズームマスター
※平成12年6月1日現在当社調べ



フィルム選びのポイント
第4の感色層

速い動きも
ブレずにピタリ

フラッシュなしでも
手ブレが少ない

手前から奥まで
ピントくつきり

暗い場所でも
明るく撮れる